

授業科目名： 日本史概論Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口（山田）えり
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：古代から近世までの日本史学の基本的な概念と歴史を学ぶことの意義を考える。 到達目標：前近代の日本の政治経済・文化の知識を身につけ、世界の中に「日本」を位置づけて考え、日本をめぐる時代ごとの論点を説明できるようになる。				
授業の概要：Eastern Influence の中で生じた「日本」という国の成り立ちから、Western Impact による近代化という大きな時代の転換点に差しかかるまでの日本の歴史を概説する。日本列島に生活した過去の人びとの行いから、歴史を学ぶことの意味を考えていく。				
授業計画 第1回：はじめに・日本文化の始まり 第2回：農耕社会の形成と発展 第3回：古墳と飛鳥の朝廷 第4回：律令国家の理想と現実 第5回：平安王朝の形成 第6回：「荘園公領制」の展開 第7回：武士の登場と院政 第8回：武家政権の樹立 第9回：蒙古襲来と社会の変動 第10回：南北朝の動乱と庶民の台頭 第11回：織豊期における統一事業と江戸幕府の成立 第12回：武断から文治への政策転換 第13回：幕藩体制の展開 第14回：経済の発展と民衆文化の成長 第15回：おわりに・近代への道				
テキスト なし。毎回資料を配付します。				
参考書・参考資料等				

各自が中学校・高等学校で使用した日本史の教科書や図録。
その他、授業中に紹介していく。

学生に対する評価

振り返りシートや小テストなど 80%、授業姿勢（質疑応答など）20%。

授業科目名： 日本史概論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武田 悠
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 現代日本の政治・外交・社会をテーマに、戦前の日本がいかにして大国となり、アメリカとの戦争に突入し、敗北を経て戦後に再出発するに至ったかを理解すること、およびこうした歴史について自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。				
授業の概要 幕末から第二次世界大戦での敗戦を経て、戦後に高度成長を達成するに至るまでの過程について、日本の政治・外交・社会の変化を解説することで、藩閥・政党・軍部の間の対立といった国内政治の構図、米英両国との関係をはじめとする外交、都市と農村の格差といった社会問題がどう影響しあい、いかに現在の日本を形作ったのかを理解するのに必要な知識と考え方を提供する。				
授業計画 第1回：はじめに―日本の政治・外交・社会の特徴 第2回：幕藩体制と外交 第3回：列強の圧力と開国 第4回：近代国家の建設：富国強兵と自由民権運動 第5回：新政府への批判と対外進出 第6回：明治憲法の制定と条約の改正 第7回：藩閥・政党関係と日清戦争 第8回：日露戦争と列強としての日本 第9回：帝国の膨張：韓国併合と満州進出 第10回：第一次世界大戦・大正デモクラシー・大衆文化 第11回：政党政治の英米協調と国内の格差 第12回：満州事変と戦時下の日本社会 第13回：日中戦争から日米戦争へ 第14回：戦後の再出発：占領・復興・講和 第15回：おわりに：戦前の遺産と戦後の高度成長				

テキスト
清水唯一朗、瀧井一博、村井良太『日本政治史 - 現代日本を形作るもの』有斐閣、2020年
参考書・参考資料等
『日本の近代』通史編1～5、中公文庫、2012～2013年
学生に対する評価
重要なテーマを正確に理解しているかを問う各回の小テスト（40%）、および自らの理解を文章で論理的に表現できるかを問う期末レポート（60%）。

授業科目名： 世界史概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飯島典子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 中国が世界史と密接な関わりをもつ近現代史を中心に、世界史の中での中国史を位置づけられるようにする。			
授業の概要 古代から現代までの中国通史を扱うが、できる限り最新の研究成果を踏まえ、また周辺地域及び現代国際社会への関連、影響を含めて紹介する。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 殷（商）周時代の概説 第3回 戦国時代から秦の中華統一 第4回 漢楚の興亡 第5回 隋唐帝国と東アジア世界 第6回 宋代 東アジア「近世」の幕開け 第7回 元代 ユーラシアの中の中国 第8回 明代 アジアの大航海時代 第9回 清代 アジアの大帝国（1）清朝の領土拡張 第10回 清代 アジアの大帝国（2）近代への胎動 第11回 辛亥革命と中華民国 第12回 中華民国と周辺国・地域 第13回 中華人民共和国の成立 第14回 改革開放の時代 第15回 まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 授業中必要に応じて紹介			
学生に対する評価 毎回授業後の振り返りシート50%、試験結果50%			

授業科目名： 世界史概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長 史隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標			
アメリカは、「自由と平等」を掲げて誕生し、そこから民主主義や資本主義を発展させた。この授業では、世界史についての多角的な理解の涵養の一助とすべく、アメリカの建国から現代までの歩みを学ぶ。その際、現代の民主主義社会の基盤である「自由と平等」という理念がどのように誕生し、変遷を遂げたのかに着目する。とりわけ、政治エリートの動向にとどまらず、「自由と平等」から排除された人びと——女性や非白人やその他の少数者——にも焦点を当てる。それによって、昨今その重要性が叫ばれている社会の「多様性」や「インクルージョン」（包摂）といった概念への理解を深める。ひいては、単なる年表的な出来事の把握ではなく、いま我々が生きている社会のあり方を問い直し、今後を構想する視座の獲得を目指す。			
授業の概要			
履修者には、事前に配布する所定の文献を読了し、それについての考察（200～800字程度）を授業前日までに提出したうえで授業に臨んでもらう。授業は、課題文献に対する教員による補足説明、および受講者が事前に提出した考察に対する教員の応答、さらにそれらを踏まえたグループ討論を中心に進める。			
授業計画			
第1回： イントロダクション：現代社会の基盤としての「自由と平等」を考える			
第2回： イギリス植民地時代のアメリカ——「自由と平等」の胎動			
第3回： アメリカ独立革命——「自由と平等」の創出			
第4回： 「自由と平等」の拡張——民主主義と資本主義の発展			
第5回： 「自由と平等」から排除された人びと——女性と非白人			
第6回： 南北戦争——奴隷解放の意義と限界			
第7回： 革新主義の時代——社会改革と対外膨張			
第8回： 第1次世界大戦——「民主主義のための戦争」の光と影			
第9回： ニューディールから第2次世界大戦へ——自由民主主義の盟主としてのアメリカ			
第10回： 冷戦の開始とマッカーシズム——「アメリカ的生活様式」の光と影			
第11回： ベトナム戦争から冷戦の終結へ——蹉跎から勝利へ			

第12回： 9・11同時多発テロ——「テロとの戦い」の光と影
第13回：「自由と平等」を求める現代の運動①——ウーマンリブから#MeToo運動へ
第14回：「自由と平等」を求める現代の運動②——公民権運動からブラック・ライヴズ・マターへ
第15回： トランプ大統領誕生の背景と先進国の病理
テキスト
各回の事前に配布する文献資料
参考書・参考資料等
梅崎透ほか編著『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房、2021年）
藤永康政・松原宏之編著『「いま」を考えるアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2022年）
遠藤泰生・小田悠生編著『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023年）
学生に対する評価
毎回の授業後に提出するコメントペーパー（50％）／授業内でのグループ討論への積極的参加（10％）／期末レポート（40％）

授業科目名： 国際関係史（ロシア）Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 斎藤 祥平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：帝政ロシア、ソ連、現代ロシアの国際関係の通史 到達目標：ロシアにとって、ヨーロッパとアジア双方の状況がいかに連動しているのかを理解することを目標とする。また、複雑な国際関係を歴史の流れに沿って巨視的に理解することも重要だが、例えば大国間の外交における周辺国や、外交官、戦争捕虜・難民、抑留者、亡命者、スパイが果たした役割（ゾルゲ事件）など、国家や地域の間で媒介の役割を果たしていた存在にも着目することで、歴史の具体像に迫るための微視的な視点を養う。適宜、映画やドキュメンタリーを鑑賞し、理解や関心を深める。また、講義内容の中から関心を持ったテーマを選び、それについて掘り下げ、期末レポートを執筆する。			
授業の概要 帝政ロシア、ソ連、現代ロシアの国際関係の通史を講義する。各時代について、まずヨーロッパ方面での事情について扱ったうえで、同時期にロシアがアジア方面でどのような動きをしていたのか講義する。また、ロシアをめぐる歴史認識や相互イメージ等を通じて、国際関係を多角的な側面から分析する手法を紹介する			
授業計画 第1回：導入 ロシアとヨーロッパ、アジア 第2回：帝政ロシアの国際関係（1）対ヨーロッパ 第3回：帝政ロシアの国際関係（2）クリミア戦争とその影響 第4回：帝政ロシアの国際関係（3）対アジア 第5回：帝政ロシアの国際関係と日露戦争 第6回：第一次世界大戦とロシア革命 第7回：両大戦間期におけるソ連の国際関係（1）ヨーロッパ方面 第8回：両大戦間期におけるソ連の国際関係（2）アジア方面 第9回：映画・ドキュメンタリー鑑賞 第10回：ソ連と冷戦（1）ヨーロッパ方面 第11回：ソ連と冷戦（2）アジア方面			

第12回：冷戦の展開と中ソ関係 第13回：現代ロシアの対外政策(1) 対米、対欧州関係 第14回：現代ロシアの対外政策(2) アジア諸国との関係 第15回：まとめ
テキスト 授業中に適宜配布する。
参考書・参考資料等 授業中に適宜配布する。
学生に対する評価 受講票の記述（40％）、授業中に扱う映画等への感想文（10％）、最終レポート（50％）

授業科目名： 国際関係史（日本）Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武田 悠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 明治維新から1945年までの日本外交をテーマに、戦前の日本がいかにして大国となり、なぜアメリカとの戦争に突入して敗北するに至ったかを理解すること、およびこうした歴史について自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。			
授業の概要 幕末から第二次世界大戦での敗戦に至るまでの日本外交の解説を通じて、藩閥・政党・軍部の間の対立といった国内政治と外交がどう影響しあい、敗戦に至ったのかを理解するのに必要な知識と考え方を提供する。			
授業計画 第1回：はじめに一戦前日本外交の特徴 第2回：幕藩体制の遺産 第3回：開国と内戦 第4回：近代国家の建設と国内の反発 第5回：対外進出の開始 第6回：不平等条約改正への努力 第7回：日清戦争と国内政治 第8回：日露戦争と国際政治への参入 第9回：大陸への進出 第10回：第一次世界大戦期の日本外交 第11回：政党政治と英米協調 第12回：軍部の台頭と満州事変 第13回：日中戦争：日米対立の激化 第14回：日米戦争：敗戦とその意味 第15回：おわりに一戦前日本外交の可能性と限界			
テキスト 北岡伸一『日本政治史―外交と権力 増補版』有斐閣、2017年			

参考書・参考資料等
『日本の近代』通史編 1～5、中公文庫、2012～2013年
学生に対する評価
重要なテーマを正確に理解しているかを問う各回の小テスト（40%）、および自らの理解を文章で論理的に表現できるかを問う期末レポート（60%）。

授業科目名： 日本文化史Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口（山田）えり
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 広島地域の歴史文化 到達目標：自身の日常の中に日本文化を検討するに値する様々な糸口があることを知り、日本文化に関わる事象を学術的見地から考察できるようになる。			
授業の概要：自然環境に対応しながら衣食住といった生活文化を発展させてきた日本の思考について、本講義では、特に広島地域の古くからの特色を題材に学ぶ。			
授業計画 第1回： オリエンテーション ―日本の文化と歴史を学ぶ基本― 第2回： 『日本書紀』を考える ―文字史料で研究する方法― 第3回： 『日本書紀』にみえる広島 ―なぜ広島は“安芸国”？― 第4回： 『日本書紀』にみえる広島 ―ヤマタノオロチは広島にいた？― 第5回： 広島の文化財調査 第6回： 広島の文化財 ―碑文から知る広島の近代― 第7回： 広島の文化財 ―神楽の現代的課題― 第8回： 日本文化に関わる特別講義 第9回： 昔の食生活 ―「和食」の起源― 第10回： 「安芸国の特産物を『延喜式』から探る 第11回： 昔の人は何を食べていたの？ ―「塩」の活用法― 第12回： 『百人一首』―古典から“畳の上の格闘技”へ 第13回： 女性天皇の歴史 第14回： 日本古代の女帝―例外？普遍？ 第15回： 国際化の中で日本文化を学ぶ意義 ＊受講人数、特別講義の日程、学外環境、また、日本文化に関する重要な出来事が起きた場合など、シラバスの順序・内容は変更します。			
テキスト なし。授業中に資料を配布します。			

参考書・参考資料等

広島県の歴史散歩編集委員会『広島県の歴史散歩』山川出版社（2009年）

その他、授業中に紹介します。

学生に対する評価

授業姿勢（質疑応答など）（20%）や調査に関する提出物（30%）、最終課題（50%）の成績で評価します。

授業科目名： 東南アジア研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 板谷 大世
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：東南アジア地域および諸国に関する基本的認識を深める 到達目標：東南アジアは多様な性格をもった国々からなる地域であることと、多様性の中にある共通性についても理解できるようになる。			
授業の概要 ・ 世界最大のムスリム人口を抱えるインドネシア、敬虔な仏教徒の国家であるタイ、ヒンズー教徒が多数を占めるバリ島、カトリック教徒が8割を占めるフィリピン、このように宗教だけを見ても東南アジアは多様性に富んでいる。また経済的に見ても、ミャンマーやカンボジアなどと、ブルネイやシンガポールとの間には、100倍近い経済的な格差もある。政治的にも、独立以来、議会制民主主義を大切にしてきた国もあれば、20年近く国会が停止されていた国もある。 ・ こうした多様性をもって、東南アジアは政治経済的に「東西対立と南北問題の接点」であり、文化的には「文化の十字路」に位置している、ともいわれている。 ・ 本講義では政治・経済・文化の面において多様性をもつ東南アジア諸国の理解と、東南アジアを地域として把握することを目的とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：東南アジアの概観 第3回：東南アジアと日本 第4回：東南アジアと植民地支配 第5回：東南アジアと中国 第6回：インドネシアの社会と政治 第7回：マレーシアの社会と政治 第8回：シンガポールの社会と政治 第9回：フィリピンの社会と政治 第10回：東チモールとブルネイの社会と政治 第11回：ミャンマーの政治と社会			

第12回：タイの社会と政治 第13回：ベトナム戦争とラオス、カンボジア 第14回：カンボジア紛争とベトナム、ラオス 第15回：東南アジアとASEAN
テキスト なし
参考書・参考資料等 ・清水一史、田村慶子、横山豪志(編著)、『東南アジア現代政治入門〔改訂版〕』ミネルヴァ書房、2018年。岩崎育夫、『入門 東南アジア近現代史』講談社現代新書、2017年。山本信人(監修)、『東南アジア地域研究入門1～4』慶應大学出版会、2017年。 ・参考資料等は授業中に配布します。
学生に対する評価 ・「平常の成績（平常点）」により成績評価を行います。 ・平常点は授業への参加度（60％）と受講態度（40％）を基本とします。 ・参加度は授業内容を毎回まとめて指定日までに提出する「復習ノート」の内容、受講態度は「復習ノート」の提出回数から判断します。参加度と受講態度、それぞれで60％以上の評価を受ける必要があります。

授業科目名： フランス文化論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大場 静枝
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：フランス・ブルターニュ地方の言語、文化、歴史 到達目標：ブルターニュ地方の歴史やブレイス語の言語史、16世紀から現在までのフランスの言語政策について、専門的な知見や系統的な知識を獲得する。また、ブルターニュ地方を事例に、少数言語文化の擁護運動について基礎的な知識を獲得する。多言語共存・多文化共生について基礎的な知識を得るとともに、この問題に対して自ら思考し理解を深める。				
授業の概要 フランスのブルターニュ地方をフィールドに、フランスの地域文化を学ぶ。フランス革命以後、「一つにして、不可分のフランス」を掲げ、一言語主義を押し進めてきたフランス政府の方針のもとで消滅の危機にさらされている地域語について、主に歴史的な観点から考察する。ブレイス語の受難の歴史と復興運動を通して、フランスの地方と地域語の現在・過去・未来について考えていく。				
授業計画 第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要についての説明、ブルターニュとは？ 第2回：フランスの地域語（1）：フランスの言語政策と地域語 第3回：フランスの地域語（2）： ブレイス語の系統と特徴、簡単なブレイス語 第4回：大陸のケルトの歴史（1）：ケルトの発祥と拡散、映像視聴 第5回：大陸のケルトの歴史（2）：古代ケルト文明 第6回：大陸のケルトの歴史（3）：ケルト民族の興亡、ローマの属州時代 第7回：多様なケルト世界の魅力：ケルトと日本、ケルトの表象など 第8回：ブルターニュの歴史（1）：ブルターニュ公国の成立、ブルターニュ継承戦争 第9回：ブルターニュの歴史（2）ブルターニュ公国のフランス王国への併合 第10回：ブルターニュの歴史（3）：絶対王政下のブルターニュ地方と抵抗の歴史、近現代のブルターニュと分離独立運動 第11回：ブレイス語の歴史（1）：一言語主義とブレイス語の受難 第12回：ブレイス語の歴史（2）：共同体内部の言語放棄と二言語兼用				

第13回：ブレイス語の歴史（3）：言語交替と消滅の危機
第14回：言語擁護運動（1）：ブレイス語の擁護運動とバイリンガル教育の推進
第15回：言語擁護運動（2）：ブレイス語の復興の現状（課題と展望）
テキスト なし。プリントを配布。
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介
学生に対する評価 期末レポート：50%（内容の理解、論述の適切さなどを総合的に判断する） 平常点：50%（中間レポートの提出35%、毎授業後の振り返りシートの提出15%により、判断する）

授業科目名： 地理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：目黒紀夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会科及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：自然地理学と人文地理学の基本的な概念 到達目標：地理学が大きく自然地理学、人文地理学、地誌学の3つに大別される時、これら3つの基本的な差異を理解した上で、自然地理学と人文地理学の基本的な概念を理解する。			
授業の概要 導入として、まず自然地理学、人文地理学、地誌学の基本的な差異を説明する。その後、自然地理学、人文地理学の順に基本的な概念を講義する。			
授業計画 第1回：イントロダクション——地理学における自然と人文と地誌 第2回：自然地理学（1）——地球 第3回：自然地理学（2）——気候 第4回：自然地理学（3）——地形 第5回：自然地理学（4）——生物 第6回：自然地理学（5）——水 第7回：自然地理学（6）——災害 第8回：自然地理学（7）——環境問題 第9回：人文地理学（1）——生産 第10回：人文地理学（2）——流通・交通 第11回：人文地理学（3）——生活 第12回：人文地理学（4）——都市・村落 第13回：人文地理学（5）——社会・福祉 第14回：人文地理学（6）——不平等・移民 第15回：人文地理学（7）——地理学の資料と表現方法 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

『地理学基礎シリーズ1 地理学概論（第2版）』（上野和彦・椿真智子・中村康子編、朝倉書店、2015年）、『地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論』（高橋日出夫・小泉武栄編、朝倉書店、2008年）

学生に対する評価

学期末の定期試験：60%

授業内で行なう小テスト（自然地理学と人文地理学のそれぞれについて各2回、合計4回）：
40%（10%×4）

授業科目名： 比較地誌学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：目黒紀夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会科及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む。） ・ 地誌		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：世界の地誌とその比較 到達目標：世界の地誌を自然地理学と人文地理学の基本的な概念を踏まえて理解するとともに、 比較を通じて各地域の地誌の特徴を説明できるようになる。			
授業の概要 日本を始めとする世界各地の地誌を教科書に基づき講義する。その過程で、それぞれの地域の 地誌が自然地理学・人文地理学のどのような基本的な概念に基づいて説明されているのかを考 えるとともに、それ以前に説明された地域との間にどのような地理学的な共通点および相違点 があるのかを検討する。			
授業計画 第1回：イントロダクション——地誌学の視点と方法 第2回：世界 第3回：日本 第4回：朝鮮半島 第5回：中国 第6回：インド 第7回：東南アジア 第8回：オーストラリア 第8回：アメリカ合衆国 第9回：ラテンアメリカ 第10回：ヨーロッパ 第11回：ロシア 第12回：中東 第13回：アフリカ 第14回：まとめ①——各地域の地理学的な特徴を整理する 第15回：まとめ②——各地域の地理学的な特徴を比較する 定期試験			

テキスト なし
参考書・参考資料等 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論（第2版）』（矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編、朝倉書店、2020年）、『世界地誌シリーズ』（全11巻、朝倉書店、2011～2019年）
学生に対する評価 学期末の定期試験：80％ 授業内で行なう小テスト（合計4回）：20％（5％×4）

授業科目名： 国際開発学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：目黒紀夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会科及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：学際的な学問領域としての国際開発の3つの柱 到達目標：国際開発学の柱とされる開発経済学、開発政治学、開発社会学の3つの学問領域について、それぞれの学問領域における開発の意味とこれまでのパラダイム（支配的な考え方）の変遷を理解し、他の学問領域との比較の上に基本的な特徴を説明できるようになる。			
授業の概要 国際開発学の概要を講義した後、開発経済学、開発政治学、開発社会学のそれぞれの学問領域における開発の意味とパラダイムの変遷を順に講義する。授業の中では、関連する国際開発学の重要概念について補足的な説明をするとともに、ある国や地域（の開発）について書かれた文章を読み、その文章のどのような点が各学問領域の講義内容と重なるかを検討することを行なう。			
授業計画 第1回：イントロダクション——国際開発学の特徴 第2回：開発経済学（1）——開発経済学における開発の意味 第3回：開発経済学（2）——開発経済学におけるパラダイムの変遷 第4回：重要概念（1）——貧困 第5回：文章読解（1）——開発経済学者「らしい」点を考える 第6回：開発政治学（1）——開発政治学における開発の意味 第7回：開発政治学（2）——開発政治学におけるパラダイムの変遷 第8回：重要概念（2）——民主主義 第9回：文章読解（2）——開発政治学者「らしい」点を考える 第10回：開発社会学（1）——開発社会学における開発の意味 第11回：開発社会学（2）——開発社会学におけるパラダイムの変遷 第12回：重要概念（3）——参加 第13回：文章読解（3）——開発社会学者「らしい」点を考える 第14回：重要概念（4）——エンパワーメント			

第15回：まとめ——各学問領域の強みと弱みを考える

テキスト

『国際開発学入門——開発学の学際的構築』（大坪滋・木村宏恒・伊東早苗編、勁草書房、2009年）

参考書・参考資料等

授業中に適宜、資料を配付する。

学生に対する評価

学期末の最終課題：40%

開発経済学・開発政治学・開発社会学のそれぞれに関する小課題：60%（各20%）

授業科目名： 地域再生論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 史博・目黒 紀夫
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：地域再生の現状の理解と将来を探究する思考力の習得			
到達目標：地域再生の現状を“事実”に即して理解し語る力を身につける。その過程で、様々な専門分野の知見を踏まえながら地域再生の個別課題を深く学び、総合的な判断力を身につけるとともに、多角的な視点から地域再生の可能性と課題を学び、自ら将来のあり方を探る思考力を身につける。			
授業の概要			
高度成長期から深刻化してきた地方の疲弊の実態、また様々な課題が絡み合う地域再生という難題について、担当教員だけでなく行政や民間団体など様々な立場から現場に関わる人が特別講師として講義を行い、学生との間で議論を交わす。			
授業計画			
第1回 ガイダンス：地域再生の背景（担当：山根・目黒）			
第2回 地域再生は何をめざし誰が担うのか（担当：山根・目黒）			
第3回 「居住地」「観光地」としての地域（担当：山根）			
第4回 郷土食と地域文化の共進化（担当：山根）			
第5回 カリスマ町長による「生き残りの戦略」（担当：目黒）			
第6回 地域を知る手段としての聞き書き（担当：目黒）			
第7回 「島留学」の意味と意義（担当：目黒）			
第8回 これまでの振り返りと掘り下げ（担当：山根・目黒）			
第9回 現場からの報告①：行政（担当：特別講師）			
第10回 現場からの報告②：民間団体（担当：特別講師）			
第11回 今と昔・都市と農村の相互扶助（担当：山根）			
第12回 地域創生に取り組む人（担当：山根）			
第13回 観光開発と地域社会：日本とアフリカの事例から（担当：目黒）			
第14回 地域振興政策の系譜（担当：山根・目黒）			
第15回 まとめ：全体の振り返りと掘り下げ（担当：山根・目黒）			

※ 特別講師も含めた担当者の都合により、各回の内容や順番が変更になることがある。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

随時、参考資料を配布する

学生に対する評価

各回の課題（レポートなど）に基づく

授業科目名： 比較文化論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田川 玄
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 主に文化人類学の視点から家族・親族について理解し、説明できることを到達目標とします。			
授業の概要 この授業では、主に文化人類学の立場から家族・親族について学習します。家族・親族は人類に共通してみられる関係ですが、その姿は社会によって実に多様です。授業では、文化人類学だけでなく歴史研究や社会学の知見もふまえて、家族・親族の理論と民族誌的な事例から家族・親族の自明性を捉え直します。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：わたしたちの身の回りで「家族」はどのように表象されているのか 第3回：家族についての映像資料の視聴 第4回：「核家族」は普遍的か？ 第5回：西欧の近代家族 第6回：日本における近代家族：明治期から昭和初期 第7回：日本における近代家族：戦後 第8回：人類学の家族・親族の理論：機能主義 第9回：人類学の家族・親族の理論：構造主義 第10回：家族・親族の民族誌：エチオピアのボラナ社会 第11回：家族・親族の民族誌：その他の民族 第12回：新生殖技術：ビデオ上映 インド 第13回：新生殖技術：イスラエルなど 第14回：国際養子 第15回：課題の作成			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

梅屋潔・シンジルト共編2017『新版 文化人類学のレッスン』学陽書房。

落合恵美子2019『21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた 第4版』有斐閣。

このほかの資料は授業中、適宜示す。

学生に対する評価

授業後のリアクションペーパーと小課題：40%、最終課題：60%

授業科目名： 中東アラブ研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田浪 亜央江
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む。） ・ 地誌		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：パレスチナ問題をめぐる諸側面 到達目標：中東・アラブ世界で起きている出来事の背景として、パレスチナ問題が直接的・間接的に関わっていることを理解し、局地的なものとしてではなく大きな歴史や他地域との関わりの中で捉えられるようにする。また、パレスチナの現状や将来をめぐる議論を通じ、民主主義や国家、多民族共存とは何であるのかを具体的に考える視点を得る。			
授業の概要 前半では中東のさまざまな紛争の根源ともいえるパレスチナ問題に焦点をあて、その歴史的背景を知ること、この地域を捉えるための基本的な視点を提示する。後半ではジェンダーの視点からパレスチナ／イスラエルを捉える。パレスチナの女性による社会運動や文化活動、スモールビジネスに光をあてる一方、一見西洋的で男女平等な社会に見えるイスラエル社会における諸問題をジェンダーの視点で考える。「“女性抑圧的なイスラーム社会”に属するパレスチナ」と「民主的・西洋的なイスラエル」という二項図式を再検討することを通じ、中東地域に関するさまざまな情報を処理してゆくためのリテラシーを身につける。			
授業計画 第1回：パレスチナとイスラエルの現在 第2回：パレスチナ問題の歴史的背景・シオニズム運動 第3回：パレスチナ問題の歴史的背景・委任統治とパレスチナ分割 第4回：パレスチナ人の難民化と女性運動 第5回：パレスチナ難民と国際社会 第6回：パレスチナの文化運動と女性 第7回：イスラエル建国と女性 第8回：パレスチナ／アラブ社会とジェンダー 第9回：現代のパレスチナと女性 第10回：女性兵士をめぐる議論 第11回：イスラエル社会とジェンダー			

第12回：イスラームとジェンダー 第13回：イスラエル社会の性的マイノリティをめぐる議論と動向 第14回：パレスチナ／イスラエルとジェンダー 第15回：授業内課題論文作成
テキスト なし
参考書・参考資料等 授業中に適時文献の抜粋を配布するほか、そのほかの参考資料を紹介する。
学生に対する評価 平常点（授業後に毎回提出するコメント）50%、課題論文50%

授業科目名： アフリカ研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田川玄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標 主にサハラ以南のアフリカの多様な自然・言語・歴史・文化・社会を理解し、説明できる。			
授業の概要 アフリカは、人類にとって最も古く最も新しい土地です。最も古いとは、アフリカ大陸は類人猿から現生人類に至る進化のゆりかごとなり、そこから世界に広がったことを意味します。人類史的に見れば、私たちの起源はアフリカ大陸にあるのです。 一方、これまで私たちの社会には、アフリカとは近代文明が発達していない昔のままの遅れた場所であり、アフリカの人びとが救われるためには早急な近代化が必要であるという、ある意味で救い難い見方があります。現実はその逆なのかもしれません。確かにアフリカは、世界システムの周縁に位置づけられ、その影響を過敏に受けていますが、それはアフリカが世界の最末端ではなく最先端であることを意味します。アフリカこそがわたしたちの未来なのであり、その現状を理解しない限り、人類全体に未来はありません。つまり、アフリカは人類にとって最も新しい土地なのです。 しかし、アフリカを一枚岩に捉えてはいけません。そこには実に多様な生活世界が築かれているからです。もしかして、そこにこそ未来へのヒントがあるのかもれません。 この授業では、こうした認識を理解するために、アフリカの多様な姿を学習します。			
授業計画 第1回：イントロダクション アフリカへの招待 第2回：映像でアフリカを知る 第3回：わたしたちのアフリカへの眼差し 第4回：自然環境 第5回：言語と社会 第6回：狩猟採集 第7回：農耕と牧畜 第8回：都市を生きる 第9回：歴史という視点			

第10回：大西洋の奴隷貿易 第11回：奴隷貿易の影響 第12回：植民地化のプロセス 第13回：現代のアフリカの諸問題 第14回：音楽 第15回：課題作成
テキスト なし
参考書・参考資料等 松田素二編 2014『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社。 宮本正興・松田素二編 2018『改訂新版 新書アフリカ史』講談社現代新書。 このほかの資料は適宜、授業中に提示する。
学生に対する評価 授業後のリアクションペーパーと小課題：40%、最終課題：60%

授業科目名： 国際政治理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 秦野 貴光
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：国際関係論における基本的な理論 到達目標：国際関係論における様々な理論がそれぞれどのような前提に基づいて何をどう説明しようとしているのかを説明・比較できるようになるとともに、国際関係論における理論と歴史の相互作用について複眼的に説明できるようになる。			
授業の概要 リアリズムやリベラリズムをはじめとする国際関係論における様々な理論について講義し、それらの比較を通して国際政治理論の多様性に対する認識を深めることを目指すとともに、国際政治理論と歴史の関係について批判的に検討できるようになることを目指す。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：リアリズム 第3回：覇権安定論 第4回：パワー 第5回：国際社会論 第6回：機能主義 第7回：新機能主義 第8回：相互依存論 第9回：国際レジーム論 第10回：グローバル・ガバナンス論 第11回：民主的平和論 第12回：構成主義理論 第13回：ポスト実証主義 第14回：外交政策（政策決定論） 第15回：国際政治理論と歴史			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 『国際政治理論—パズル・概念・解釈』（大芝亮著、ミネルヴァ書房、2016年）
学生に対する評価 授業参加度（質問と感想の内容、30％）、期末レポート（70％）

授業科目名： 国際取引と法Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺井（小田）里沙
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：契約責任・不法行為責任、国際売買契約、国際運送契約			
到達目標：国際取引上の民事責任として契約責任・不法行為責任を区別して理解できる。国際 売買契約、国際運送契約に関して生じる問題および解決基準としての関連法を理解できる。こ れらの知識を前提として、関連する裁判例を理解できる。			
授業の概要			
外国の企業を取引相手に事業展開する際には、多くのリスクが伴う。例えば、貿易の場合に は、輸出者は「本当に商品の代金を支払ってくれるのか？」という支払に関するリスクを、輸 入者は「本当に商品を引渡してくれるのか？」という引渡に関するリスクを懸念する。こうし たリスクは国内取引も伴うが、異なる国の企業を相手方とする国際取引の場合にはより大きな リスクを伴う。それでは、これらのリスクを回避するためには、いかなる支払手段、引渡方法 を用いるべきか？また、国際取引において紛争が生じた場合には、いずれの国で裁判をし、い ずれの国の法を適用すべきか？本講義では、以上のような、国際ビジネスに携わる上で必要と なる法律上の論点について学ぶ。			
理論だけでなく実務についても学んでもらうために、具体的な裁判例も扱う。裁判例を読む ことで、国際ビジネスでは、どのような当事者の間にどのような利害関係があり、その問題を どのように解決、調整するのか、具体的にイメージできるようになる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：契約責任と不法行為責任（1）理論編：契約責任			
第3回：契約責任と不法行為責任（2）理論編：不法行為責任			
第4回：契約責任と不法行為責任（3）理論編：製造物責任			
第5回：契約責任と不法行為責任（4）実践編：裁判例の検討			
第6回：契約責任と不法行為責任（5）実践編：裁判例の検討			
第7回：前半のまとめ			
第8回：国際売買契約（貿易）（1）理論編：為替手形、船荷証券、信用状			

第 9 回：国際売買契約（貿易）（2）実践編：裁判例の検討

第 10 回：国際売買契約（貿易）（3）理論編：ウィーン売買条約

第 11 回：国際売買契約（貿易）（4）理論編：インコタームズ

第 12 回：国際売買契約（貿易）（5）実践編：裁判例の検討

第 13 回：国際運送契約（1）理論編：運送人の責任

第 14 回：国際運送契約（2）実践編：裁判例の検討

第 15 回：後半のまとめ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示します。

学生に対する評価

レポート（45点×2本）（90%）、授業内小テスト（2点×5回）（10%）により行います。

授業科目名： 国際関係論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 晴彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。） 、政治学（国際政治を含む。） 」		
授業のテーマ及び到達目標：この講義では、社会科学という視点から、現在世界で問題となっているいくつかのテーマについて取り上げつつ、「国際関係を見る眼＝知識、思考力」の獲得を目標とする。			
授業の概要：国際政治学、平和研究といった観点を中心に、国家のみならず様々なアクターを相対化して理解し、SDGs時代の世界を乗り切るための思考方法と情報の収集方法について考える。チャットや口頭発言による積極的な参加と講義への貢献が求められる。			
授業計画 第1回：イントロダクション：国際関係とは何か？ 第2回：国際関係のイメージ 第3回：様々なアクターが織りなす関係 第4回：近代国際関係の特徴 第5回：変容する国際認識 第6回：変容する問題意識 第7回：国際化とグローバル化 第8回：近代国民国家と国際関係 第9回：国際関係とアイデンティティ 第10回：造られた「国民国家」 第11回：戦争・紛争と国際関係 第12回：冷戦期と冷戦後 第13回：21世紀の国際関係 第14回：国家という「非常識」 第15回：まとめ			
テキスト：吉田晴彦『身近な生き物と国際関係 1』kindle版(2022年12月刊行予定)。 中村都編『国際関係論へのファーストステップ』法律文化社。			
参考書・参考資料等 必要に応じて講義内で情報提供する。			

学生に対する評価

平常点5割、期末レポート5割を基本に、相対評価を行う。平常点は講義へのチャット・口頭発言をポイント化して評価する。

授業科目名： 国際政治学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古澤 嘉朗
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：国際政治学の基本的な概念と国際情勢の分析			
到達目標：19世紀末から20世紀初頭にかけて誕生した国際社会、脱植民地化を経て世界大に広まったウェストファリア体制、国際情勢の変化による多様な主体の台頭や地球規模の課題を学ぶことで、国際政治学についての体系的な理解を身に付ける。			
授業の概要			
19世紀末から20世紀初頭にかけて誕生した国際社会、脱植民地化を経て世界大に広まったウェストファリア体制、国際情勢の変化による多様な主体の台頭や地球規模の課題についての講義を行い、国際政治学について体系的な説明・分析ができるようになることを目指す。			
授業計画			
第1回：「グローバル」と「インターナショナル」			
第2回： 国際社会と国際機構			
第3回： 国際政治学における理論の変遷			
第4回： 冷戦の終焉と新たな国際秩序の模索			
第5回： 「安全保障」概念の拡大と深化			
第6回： 人の越境移動			
第7回： NGOと市民社会			
第8回： 貧困と格差			
第9回： 感染症と国際協力			
第10回： 平和構築と国連PKO			
第11回： テロリズムとテロ対策			
第12回： 難民・国内避難民			
第13回： 人身取引と人権			
第14回： 開発援助			
第15回： 国連外交			
定期試験			

テキスト
なし
参考書・参考資料等 - 広瀬佳一・小笠原高雪・小尾美千代編（2021）『よくわかる国際政治』ミネルヴァ書房。 - 佐藤史郎・川名晋史・上野友也・齋藤孝祐編（2018）『日本外交の論点』法律文化社。 - マンフレッド・スティーガー（櫻井公人・櫻井純理・高嶋正晴訳）（2010）『グローバリゼーション』岩波書店。
学生に対する評価 授業貢献度（議論への貢献度、発言の回数）30%、予習課題（新聞記事の要約を毎週提出）20%、定期試験 50%

授業科目名： 平和研究Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 晴彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 「平和」という論争的な概念について議論していくためには何が必要か。この難題について、自ら考えるために必要な知識と思考力、表現力の基礎を身につけることが到達目標である。 2年次に開講される「平和研究Ⅱ、Ⅲ」を受講するための基礎的知識を習得することも、目標の一つである。			
授業の概要 平和研究とは何か、その基本的な概念や枠組み、方法論について、主に国際関係、国際政治の視点から考察する。グローバル化が叫ばれる中で世界がどのような問題を抱えているのか、それらに対してどのような取り組みが行われようとしているのか、それらの問題はわたしたちとどのように関わりがあるのか、といった問題について考える。			
授業計画 第1回：イントロダクション：平和について考えるとは 第2回：「平和」と聞いてイメージするもの 第3回：身近にある平和へのヒント 第4回：平和をめぐる常識・非常識 1 私たちは何を学んできたのか 第5回：平和をめぐる常識・非常識 2 国際社会のイメージと現実 第6回：平和をめぐる常識・非常識 3 深刻な思考と真剣な思考 第7回：平和をめぐる常識・非常識 4 平和は世界共通の願いか 第8回：平和をめぐる常識・非常識 5 タブーからの解放 第9回：社会科学としての平和研究 1 平和を論理的に考えてみる 第10回：社会科学としての平和研究 2 科学にもとづく平和の希求とは 第11回：平和をめぐるイメージと理論 1 リアリズム・リベラリズムによる平和のイメージと理論 第12回：平和をめぐるイメージと理論 2 人々の思いによる平和のイメージと理論 第13回：20世紀までの平和論争 第14回：21世紀の平和に向けて 第15回：まとめ			

定期試験
テキスト 吉田晴彦『身近な生き物と国際関係 1』Kindle版 中村都編『国際関係論へのファーストステップ』法律文化社
参考書・参考資料等 必要に応じて適宜講義内で指示する。
学生に対する評価 平常点（チャットや口頭発言による講義への貢献）5割、期末レポート5割で採点を行う。 相対評価を基本とする。

授業科目名： ミクロ経済学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 史博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学・経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標：ミクロ経済学の基礎概念と完全競争市場の分析 ミクロ経済学が依拠する基本原則（経済学的な考え方）、その適用範囲の広さ・限界、長所・短所を理解し、経済学的な考え方で人々の選択や社会現象、政策効果のメカニズムを分析できるようになる。			
授業の概要 ミクロ経済学の基礎的なトピックス（消費者行動、生産者行動、市場の働き）を重点的に扱う。			
授業計画 第1回：社会科学としてのミクロ経済学の役割 第2回：経済的な考え方 第3回：消費者行動：需要の概念 第4回：消費者行動：希少な財の配分 第5回：消費者行動：無差別曲線と予算制約線 第6回：消費者行動：効用最大化問題・支出最小化問題 中間試験① 第7回：生産者行動：供給の概念 第8回：生産者行動：機会費用とサンクコスト 第9回：生産者行動：等量曲線と等費用線 第10回：生産者行動：費用最小化問題・利潤最大化問題 中間試験② 第11回：市場の働き：巨大なサプライチェーンが機能するための条件 第12回：市場の働き：価格調整 第13回：市場の働き：消費者余剰と生産者余剰 第14回：市場の働き：市場環境の変化、市場間の連環 第15回：市場の働き：政府による市場介入 期末試験			
テキスト なし。配布資料の内容に沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等			

グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学Iミクロ編（第3版）』東洋経済新報社 2013年
スティーヴン・レヴィット他著『ミクロ経済学基礎編』東洋経済新報社 2017年

学生に対する評価

中間試験30点、期末試験30点、授業参加度（積極性など）40点

授業科目名： マクロ経済学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 広雅
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学・経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：GDP、資本市場、貨幣の概念、国と国の取引などの考え方や知識を習得することを目的とします。 到達目標： ・市場と価格の役割を説明できる。 ・GDP、資本市場、貨幣、国際経済についての基本的な考え方を説明できる。			
授業の概要 マクロ経済学は、1国全体、あるいは国と国の間においてどのような仕組みで経済が成り立っているかを分析する分野です。マクロ経済学Ⅰでは、経済学の基本的な考え方を学んだ後、マクロ経済学に登場する用語、概念について勉強します。具体的には、GDP、資本市場、貨幣の概念、国と国の取引といった考え方や知識を習得することを目的とします。			
授業計画 第1回：経済学とは何か 第2回：市場と価格：定義 第3回：市場と価格：機能 第4回：市場の失敗と政府の役割 第5回：マクロ経済学とは何か 第6回：国民経済計算：定義 第7回：国民経済計算：名目と実質 第8回：資本市場：基本事項 第9回：資本市場：機能 第10回：割引現在価値 第11回：貨幣の定義 第12回：銀行制度 第13回：国際経済：国際取引 第14回：国際経済：比較優位			

第15回：国際経済：外国為替 定期試験
テキスト 特定のテキストは使用しません。講義ノートを配布します。
参考書・参考資料等 武隈慎一『マクロ経済学の基礎理論』新世社、1998年 三野和雄『マクロ経済学』培風館、2013年
学生に対する評価 授業参加度（アンケートや教室実験への参加等）20% 試験80%

授業科目名： 環境社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：目黒紀夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会科及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：地域社会学および環境社会学の基本的な概念の理解と分析の実践 到達目標：地域社会学および環境社会学の基本的な概念を理解するとともに、それらの概念を用いて具体的な事例を適切に分析することができるようになる。			
授業の概要 毎回の授業では講義の前または後にグループワークを行なう。受講生には事前に各回の内容に関連する資料を配布するので、それに関する問いへの答えを考えてくることを事前課題とする。グループワークでは、受講生同士で事前課題について議論することを主に行なう。			
授業計画 第1回：イントロダクション——社会と地域と環境 第2回：社会学の基礎（1）——社会とは？ 第3回：社会学の基礎（2）——集団とは？ 第4回：地域社会学の基礎（1）——農村とは？ 第5回：地域社会学の基礎（2）——都市とは？ 第6回：地域社会学の基礎（3）——都市化とは？ 第7回：環境社会学の基礎（1）——環境とは？ 第8回：環境社会学の基礎（2）——守るとは？ 第9回：環境社会学の基礎（3）——共存とは？ 第10回：応用編（1）——生業とは？ 第11回：応用編（2）——コモンズとは？ 第12回：応用編（3）——まちづくり／地域づくりとは？ 第13回：応用編（4）——公害／被害とは？ 第14回：応用編（5）——研究／フィールドワークとは？ 第15回：まとめ——（地域／環境）社会学とは？			
テキスト 『よくわかる地域社会学』（山本努編、ミネルヴァ書房、やわらかアカデミア・わかるシリー			

ズ、2022年）、『よくわかる環境社会学（第2版）』（鳥越皓之・帯谷博明編、ミネルヴァ書房、やわらかアカデミズム・わかるシリーズ、2017年）

参考書・参考資料等

授業中に適宜、資料を配付する。

学生に対する評価

レポート課題 100%（3～4回の授業ごとに1回、合計で4回、資料を分析する課題を課す。
各25%）

授業科目名： 基本統計学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 史博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学・経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標：記述統計学 統計データが持つ特徴（平均や分散などの代表値や分布）の読み方・計算方法を修得する。			
授業の概要 座学と問題演習を交互に行うことで、上記の読み方・計算方法を実践的に学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：度数分布とヒストグラム 第3回：代表値：平均、中央値、最頻値 第4回：代表値：四分位点、分散、標準偏差 第5回：代表値：共分散、相関係数 第6回：代表値：問題演習 第7回：確率の概念と定義 中間試験 第8回：確率変数：離散型と連続型 第9回：確率変数：期待値と「大数の法則」 第10回：確率変数：同時確率分布 第11回：確率変数：条件付き確率分布 第12回：確率変数：問題演習 第13回：正規分布：分布の特性と「中心極限定理」 第14回：正規分布：分布表の使い方 第15回：正規分布：問題演習 期末試験			
テキスト 豊田利久ほか著『基本統計学（第3版）』東洋経済新報社 2010年			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験30点、期末試験30点、授業参加度（積極性など）40点			

授業科目名： 金融論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高久 賢也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学・経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：金融の基礎 到達目標： ・金融の基本的な知識を修得する。 ・（金融関連の）新聞記事や専門文献の内容を理解し、自らの力で金融に関する諸問題について考えることができるようになる。			
授業の概要 本講義では、金融の基本について講義するとともに、現実に行っている金融の諸問題についても（新聞記事やデータなどに基づいて）解説を行う。本講義で修得する金融の基本的な知識に基づいて、学生が、（金融関連の）新聞記事や専門文献の内容を理解し、自らの力で金融に関する諸問題について考えることができるようになることを講義の目的とする。			
授業計画 第1回：講義の概略、および導入 第2回：金利 第3回：間接金融 第4回：直接金融 第5回：貨幣の役割 第6回：決済システム 第7回：インフレとデフレ 第8回：小テスト 第9回：金融機関 第10回：金融市場 第11回：債券 第12回：株式 第13回：金融規制① 預金保険制度 第14回：金融規制② 自己資本比率規制			

第15回：金融政策

定期試験

テキスト

教科書は指定しない。毎回の講義において講義資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・岩田規久男著 『テキストブック 金融入門』 東洋経済新報社 2008年
- ・内田浩史著 『金融』 有斐閣 2016年
- ・島村高嘉・中島真志著 『金融読本』 東洋経済新報社 2023年
- ・谷内満著 『入門 金融の現実と理論 第3版』 センゲージラーニング 2017年
- ・中島真志著 『入門 企業金融論—基礎から学ぶ資金調達の仕組み』 東洋経済新報社 2015年
- ・中島真志著 『アフター・ビットコイン：仮想通貨とブロックチェーンの次なる覇者』 新潮社 2017年
- ・中島真志著 『アフター・ビットコイン2 仮想通貨vs. 中央銀行：「デジタル通貨」の次なる覇者』 新潮社 2020年
- ・福田慎一著 『金融論—市場と経済政策の有効性 新版』 有斐閣 2020年
- ・細野薫・石原秀彦・渡部和孝著 『グラフィック 金融論 第2版』 新世社 2019年
- ・家森信善著 『金融論 第3版』 中央経済社 2022年

学生に対する評価

授業参加度（15%）、小テスト（30%）、期末テスト（55%）で評価する。

授業科目名： 経済政策論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 広雅
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学・経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ゲーム理論の基礎の習得および経済政策への応用 到達目標 ・戦略形ゲームのナッシュ均衡を理解する。 ・展開形ゲームの部分ゲーム完全均衡を理解する。 ・ゲーム理論の観点から経済政策の効果について考えられるようになる。			
授業の概要 経済政策が意図した結果を出すためには、人々のインセンティブや相互依存関係を理解する必要がある。本講義ではゲーム理論の基本的な考え方を学ぶことをとおして、人と人との相互依存関係が社会にどのような状況をもたらすかを考える基礎的な能力の習得を目的とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス：ゲーム理論とは何か 第2回：ゲーム理論の基礎 第3回：戦略形ゲーム：定義 第4回：戦略形ゲーム：ナッシュ均衡 第5回：戦略形ゲーム：応用 第6回：展開形ゲーム：定義 第7回：展開形ゲーム：部分ゲーム完全均衡 第8回：展開形ゲーム：応用 第9回：インセンティブ契約 第10回：囚人のジレンマ 第11回：繰り返し囚人のジレンマ 第12回：モラルハザード：基本編 第13回：モラルハザード：応用編 第14回：逆選択 第15回：シグナリング			

テキスト 渡辺隆裕『ゲーム理論』日本経済新聞出版社
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 授業参加度（アンケートや教室実験への参加等） 20% 課題提出（3回） 80%

授業科目名： 社会文化思想史Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上尾 真道
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：近代の社会背景との観点から見たヨーロッパ思想の理解 到達目標：19世紀以降のヨーロッパ哲学・思想の主要理論について、その時代背景との関連から説明し、それをもとに自身の考えを論理的に論じることができるようになる。			
授業の概要 「近代」が抱える問題とはどのようなものか？この問いに答えるために、主に19世紀初頭から現代まで順に、それぞれの時代状況と対応させながら、社会・文化・環境・技術をめぐる哲学・思想の意義を検討する。			
授業計画 第1回：導入——「近代」とは？ 第2回：フランス革命前夜とルソー 第3回：フランス革命以後とカント 第4回：ウィーン体制とヘーゲル 第5回：諸国民の春とマルクス 第6回：第二帝政と実証主義哲学 第7回：ベルエポック——近代のプロメテウス主義 第8回：第一次大戦とハイデガー（1） 第9回：第一次大戦とハイデガー（2） 第10回：戦間期とフランクフルト学派 第11回：ファシズム以後と「スペクタクル社会」 第12回：戦後社会とボードリヤール 第13回：ポスト資本主義とドゥルーズ 第14回：人新世とラトウール 第15回：まとめ			
テキスト なし			

参考書・参考資料等
授業中に適宜、指示する。
学生に対する評価
授業内のミニレポート：50%、最終期末レポート：50%

授業科目名： エスニシティと宗教Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田浪 亜央江
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：エスニシティと宗教に関わる主要な議論の概観			
到達目標：宗教がエスニック・アイデンティティ形成とどのように関わるのかを理解し、エスニシティと宗教を切り口に現代世界の諸問題を扱うためのリテラシーを養う。			
授業の概要			
中東に起源を有する一神教（キリスト教・イスラーム）を中心に、イスラーム社会とキリスト教コミュニティの関係における諸問題（統合と排除、多文化主義、国家と宗教、アイデンティティなど）を取り上げる。ケーススタディとして、黒人解放運動における宗教の役割に焦点をあてる。			
授業計画			
第1回：「エスニシティ」概念の起源と背景			
第2回：近年の黒人解放運動と在米ムスリム社会の関係			
第3回：教会と奴隷制度			
第4回：奴隷解放前後のアメリカ黒人			
第5回：奴隷解放と隔離政策			
第6回：キリスト教と黒人奴隷			
第7回：キリスト教とエスニシティ			
第8回：さまざまな黒人解放の思想			
第9回：アメリカにおけるイスラーム受容			
第10回：マルコムXの軌跡① 黒人分離主義とブラックナショナリズム			
第11回：イスラームと平等			
第12回：マルコムXの軌跡② イスラームとアフリカ連帯			
第13回：マルコムXと同時代のブラック・ムスリム			
第14回：まとめ：黒人解放運動と宗教			
第15回：課題論文作成			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 『完訳マルコムX自伝（下）』特に第17章「メッカ」以降。ほか、授業中に適宜テキストの一部を配布する。
学生に対する評価 平常点（講義後に毎回提出するコメントの内容）40％、課題論文の提出60％

授業科目名： 共生の哲学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上尾 真道
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：他者との共生についての哲学的思考の学習 到達目標：他者との共生について、哲学・精神分析の理論を参照しつつ、自分の考えを論じることができるようになる。			
授業の概要 本講義を受講する学生は、精神分析理論の要点に関連する哲学議論とともに学び、他者との共生について考えるための概念的道具を獲得する。さらに授業の後半では、精神分析理論を基礎に、ケアの関係に関する論点を学び、現代の共生をめぐる具体的課題を検討する。			
授業計画 第1回：導入——「よるべなさ」について 第2回：鏡としての他者 第3回：言葉としての他者 第4回：欲望と承認 第5回：法と主体化 第6回：集団の情緒的な絆 第7回：“よそもの”の排除 第8回：懲罰的な道徳 第9回：ケアと共生 第10回：母親業とケア 第11回：ケアの倫理 第12回：再生産労働 第13回：ケアと共同体 第14回：開かれた論理 第15回：まとめ			
テキスト なし			

参考書・参考資料等
授業中に適宜、指示する。
学生に対する評価
授業内のミニレポート：50%、最終期末レポート：50%

授業科目名： 教科教育法（社会・地理 歴史）Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永田 成文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教育の指導法に関する科目 （中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
中学校社会科地理的分野と歴史的分野を中心とした社会科教育の目的と内容と方法 ①中学校社会科教育の目標・内容・方法や学習評価のあり方について理解する。 ②中学校社会科地理的分野と歴史的分野の学習内容の概要を捉える。 ③社会認識と公民としての資質・能力の視点から授業を分析・評価できる。 ④社会認識を通して公民としての資質・能力を育成する単元を構想できる。 ⑤評価の観点を意識した単元構想に基づき、本時の授業案を作成できる。			
授業の概要			
中学校社会科地理的分野は空間的側面から現代世界の在り方を考え、歴史的分野は時間的側面から社会の動きを考え、これらの学びをもとに公民的分野につなげていくことを捉える。 地理的分野と歴史的分野の目的・内容・方法と問題点について考え、授業をつくりあげていくための教材研究のあり方について考察する。			
授業計画			
第1回：中学校社会科地理的分野と歴史的分野の目標を踏まえ、内容が目標に基づいて設定されていることを捉え、両分野を比較してその共通点と相違点を考察する。			
第2回：中学校社会科地理的分野の世界と日本の地域構成、世界の様々な地域、日本の様々な地域の内容の特色を捉え、小学校社会科と高等学校地理歴史科との接続の在り方を考察する。			
第3回：中学校社会科歴史的分野の歴史との対話、近世までの日本とアジア、近現代の日本と世界の内容の特色を捉え、小学校社会科と高等学校地理歴史科との接続の在り方を考察する。			
第4回：中学校社会科地理的分野と歴史的分野において、社会認識を通して公民としての資質・能力を育成する授業構成やその各段階における問いと習得される知識について考察する。			
第5回：地理的分野の世界の様々な地域の内容や方法と関連して、世界の諸地域の多様性や地域的特色を理解する学習を通して、世界の地理的認識を養うことをねらいとしていることを教科書や学習指導要領を参考に捉え、授業実践事例がねらいに到達しているかを分析する。			
第6回：地理的分野の日本の様々な地域の内容や方法と関連して、日本及び日本の諸地域の地域的特色を捉える学習を通して、我が国の国土に関する地理的認識を深めることをねらいとしていること			

を教科書や学習指導要領を参考に捉え、授業実践事例がねらいに到達しているかを分析する。

第7回：歴史的分野の近世までに日本とアジアの内容や方法と関連して、19世紀前半までの各時代の特徴を、主としてアジアを中心とした世界との関わりの中で理解することをねらいとしていることを教科書や学習指導要領を参考に捉え、授業実践事例がねらいに到達しているかを分析する。

第8回：歴史的分野の近現代の日本と世界の内容や方法と関連して、18世紀ごろからの世界の動きとの関わりの中でわが国の歴史の流れと各時代の特徴を理解することをねらいとしていることを教科書や学習指導要領を参考に捉え、授業実践事例がねらいに到達しているかを分析する。

第9回：ICT活用として、地図やGISをどのように地理的分野の授業に活用していくのか、その意義は何か、歴史的分野に活用できるのかについて考える。

第10回：中学校社会科地理的分野と歴史的分野を中心とする授業の評価の在り方について、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度から検討する。

第11回：地理的分野と歴史的分野において希望にそった単元について、グループで単元構成を考え、構成員が個人で教材研究を行い、指導案を作成するためのグループで共通する本時を決める。

第12回：各グループで設定した本時の教材研究を構成員がそれぞれ発表し、グループからのアドバイスを基に、評価の観点を意識して本時の指導案の骨組み（簡易指導案）を個人で構想する。

第13回：各自が共通する本時の簡易指導案を発表し、社会認識を通して公民としての資質・能力の基礎を育成できているかの視点からグループのアドバイスを基に完成指導案を作成する。

第14回：前半のグループについて、代表者がダイジェスト版の模擬授業（その他のグループの学生が生徒役）を行い、全体で質疑応答を行う。本授業の前半部分の学びの振り返りを行う。

第15回：後半のグループにおいて、代表者がダイジェスト版の模擬授業（その他のグループの学生が生徒役）を行い、全体で質疑応答を行う。本授業の後半部分の学びの振り返りを行う。

テキスト

社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科』学術図書

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社

参考書・参考資料等

中平一義・茨木智志・志村喬編（2021）『中等社会系教科教育研究—社会科・地理歴史科・公民科—』風間書房

学生に対する評価

授業への参加態度（25%）

授業に関する提出物（25%）

授業を踏まえた指導案作成（25%）

社会科地理的分野・社会科歴史的分野・地理歴史科に関する学びの振り返り（25%）

授業科目名： 教科教育法（社会・ 地理歴史）Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口（山田）えり
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：地理教育・歴史教育の内容・方法についての理解を深め、地理と歴史との相互補完的な関係を念頭に、学習指導計画案を作成し、模擬授業を行い、授業実践能力を養う。			
到達目標：学習指導計画がたてられ、学習指導案を作成して模擬授業ができるようになる。			
学習目標を達成するための学習教材を作成できるようになる。			
授業の概要			
高校地理歴史科と中学校社会科の授業実践へ向け、授業案の作成を行い、授業実践力を養う。授業案の作成を通して単元や授業の構成と学習内容について理解を深め、授業開発の能力を身につけ、作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、授業展開の実践的能力を身につける。模擬授業とディスカッションをくり返ししながら、授業実践力だけでなく、地理歴史科の構成と内容の検討を行っていく。なお、本授業では、教員は「日本史探究」の授業実践を一例として行うが、学生による模擬授業の内容は、高校地歴分野の範囲内であれば、そのテーマは問わない。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：高等学校「地理歴史」・中学校社会科（地理／歴史分野）指導要領の概略			
第3回：学習指導案の書き方			
第4回：高等学校「地理歴史」・中学校社会科（地理／歴史分野）の課題設定方法			
第5回：高等学校「地理歴史」・中学校社会科（地理／歴史分野）授業設計			
第6回：高等学校「日本史探究」学習指導計画案の一例			
第7回：高等学校「日本史探究」授業の一例			
第8回：受講者による学習指導計画素案の作成			
第9回：受講者による学習指導計画素案の検討			
第10回：受講者による学習指導における教材・教具作成（ICT教具を含む）			
第11回：受講者による学習指導計画素案の仕上げ			
第12回：受講者による模擬授業の実践			
第13回：受講者による模擬授業の検討			

第14回：受講者による授業計画の総括
第15回：まとめ（今後の地理歴史教育についての展望）
テキスト 中学社会科地理歴史分野の教科書 高校「地理総合」「地理探求」「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の教科書
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』社会科編及び同・解説（文部科学省、最新版） 『高等学校学習指導要領』地理歴史編及び同・解説（文部科学省、最新版）
学生に対する評価 学習指導案を作成して提出する（教材、板書事項等添付） 40% 模擬授業 35% 課題や模擬授業についての討議での発言やメモの提出 25%

授業科目名： 教科教育法（社会・公民）Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永田 成文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教育の指導法に関する科目 （中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
中学校社会科公民的分野を中心とした社会科教育の目的と内容と方法			
①中学校社会科教育の目標・内容・方法や学習評価のあり方について理解する。			
②中学校社会科公民的分野の現代社会・政治・経済・国際社会領域の概要を捉える。			
③社会認識と公民としての資質・能力の視点から授業を分析・評価できる。			
④社会認識を通して公民としての資質・能力を育成する単元を構想できる。			
⑤評価の観点を意識した単元構想に基づき、本時の授業案を作成できる。			
授業の概要			
中学校社会科公民的分野は、我々の日々の生活に最も身近な内容を扱うものであり、社会科の公民としての資質・能力の育成という究極目標に直接かかわる分野であることを捉える。			
公民的分野の目的・内容・方法と問題点について考え、授業をつくりあげていくための教材研究のあり方について考察する。			
授業計画			
第1回：中学校社会科公民的分野の目標を踏まえ、内容が目標に基づいて設定されていることを捉え、地理的分野や歴史的分野との違いを考察する。			
第2回：中学校社会科公民的分野の現代社会領域、経済領域、政治領域、国際社会領域の内容の特色を捉え、小学校社会科と高等学校公民科との接続の在り方を考察する。			
第3回：中学校社会科公民的分野において、社会認識を通して公民としての資質・能力を育成する授業構成やその各段階における問いと習得される知識について考察する。			
第4回：現代社会領域の内容や方法と関連して、現代社会の特色や現代社会を捉える枠組みについて教科書や学習指導要領を参考に捉え、現代社会領域の授業実践について、現代社会の特色は捉えられているか、現代社会を捉える枠組みを活用できるようになるかの視点から分析する。			
第5回：経済領域の内容や方法と関連して、市場の働きや経済、国民の生活と政府の役割を考察する必要性を教科書や学習指導要領を参考に捉え、経済領域の授業実践について、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して考察、構想できているかの視点から分析する。			
第6回：政治領域の内容や方法と関連して、人間の尊重と日本国憲法の基本的原則、民主政治と政治参			

加を考察する必要があることを教科書や学習指導要領を参考に捉え、政治領域の授業実践について、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して考察、構想できているかの視点から分析する。

第7回：世界平和と人類の福祉の増大について考察する必要があることを教科書や学習指導要領を参考に捉え、国際社会領域の授業実践について、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して考察、構想できているかという視点から分析する。

第8回：ICT活用の授業事例として、遠隔会議を活用した中学校社会科プログラムの特色とその意義を考える。

第9回：中学校社会科公民的分野の政治・経済領域と高等学校公民科の政治経済との接続について、授業実践を通して考える。

第10回：中学校社会科公民的分野を中心とする授業の評価の在り方について、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度から検討する。

第11回：社会・経済・政治領域において希望にそった単元について、グループで単元構成を考え、構成員が個人で教材研究を行い、指導案を作成するためのグループで共通する本時を決める。

第12回：各グループで設定した本時の教材研究を構成員がそれぞれ発表し、グループからのアドバイスを基に、評価の観点を意識して本時の指導案の骨組み（簡易指導案）を個人で構想する。

第13回：各自が共通する本時の簡易指導案を発表し、社会認識を通して公民としての資質・能力の基礎を育成できているかの視点からグループのアドバイスを基に完成指導案を作成する。

第14回：前半のグループについて、代表者がダイジェスト版の模擬授業（その他のグループの学生が生徒役）を行い、全体で質疑応答を行う。本授業の前半部分の学びの振り返りを行う。

第15回：後半のグループにおいて、代表者がダイジェスト版の模擬授業（その他のグループの学生が生徒役）を行い、全体で質疑応答を行う。本授業の後半部分の学びの振り返りを行う。

テキスト

社会認識教育学会編（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社

参考書・参考資料等

日本公民教育学会編（2019）『テキストブック公民教育（新版）』第一学習社

学生に対する評価

授業への参加態度（25%）

授業に関する提出物（25%）

授業を踏まえた指導案作成（25%）

社会科公民的分野・公民科に関する学びの振り返り（25%）

授業科目名： 教科教育法（社会・ 公民）II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 目黒 紀夫 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の教育に必要な知識と技能を、講義および指導案の作成と模擬授業の演習を通じて習得する。			
授業の概要 中学校社会科の公民的分野と高等学校公民科の3教科（「公共」、「倫理」、「政治・経済」）のそれぞれについて、まず担当教員が各分野・科目の目標・内容・内容の取扱いを講義した後に、受講生はグループに分かれて指導案の作成と模擬授業の発表を行ない、各グループの模擬授業については教員と全受講生とで議論を行なう。			
授業計画 第1回：ガイダンス——授業の進め方の説明と担当・グループの決定 第2回：中学校社会科公民的分野の目標・内容・内容の取扱いについての講義 第3回：中学校社会科公民的分野の指導案の作成①：「A 私たちと現代社会」、「B 私たちと経済」、「C 私たちと政治」 第4回：中学校社会科公民的分野の指導案の作成②：「D 私たちと国際社会の諸課題」 第5回：中学校社会科公民的分野の模擬授業 第6回：高等学校公民科「公共」の目標・内容・内容の取扱いについての講義 第7回：高等学校公民科「公共」の指導案の作成①：「A 公共の扉」 第8回：高等学校公民科「公共」の指導案の作成②：「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」 第9回：高等学校公民科「公共」の模擬授業 第10回：高等学校公民科「倫理」の目標・内容・内容の取扱いについての講義 第11回：高等学校公民科「倫理」の指導案の作成 第12回：高等学校公民科「倫理」の模擬授業 第13回：高等学校公民科「政治・経済」の目標・内容・内容の取扱いについての講義 第14回：高等学校公民科「政治・経済」の指導案の作成 第15回：高等学校公民科「政治・経済」の模擬授業			
テキスト			

文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」、「高等学校学習指導要領解説 公民編」

参考書・参考資料等

『大学生のための中等社会科・地理歴史科・公民科概論』（田部俊充・田尻信壹・小松伸之編、風間書房、2022年）、『高等学校地理歴史科公民科必履修科目ガイド』（藤野敦・中嶋則夫・空健太・飯塚秀彦・磯山恭子編、学事出版、2022年）、『板書&展開例でよくわかる 主体的・対話的で深い学びでつくる365日の全授業——中学校社会公民的分野』（梅津正美・井上昌善、明治図書、2023年）、『公共の授業と評価のデザイン——「公共」とは何か。「公共」で身に付ける力とは何か。』（藤井剛、清水書院、2023年）

学生に対する評価

グループワーク（指導案の作成・模擬授業の発表）の内容：20%

各グループの模擬授業に関する議論への貢献度：20%

学期末のレポート：60%

授業科目名： 国際関係史（日本）Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武田 悠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 1945年以後の日本外交史をテーマに、戦後の日本がいかんにして敗戦から復興し、なぜ経済大国となり、どのように国際政治に関与してきたのかを理解すること、およびこうした歴史について自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。			
授業の概要 第二次世界大戦での敗戦後の日本外交についての解説を通じて、日本外交の活動の幅がどう広がり、そこにどのような限界があったのかを理解するのに必要な知識と考え方を提供する。			
授業計画 第1回：はじめに一戦後日本外交の特徴 第2回：占領下の対外折衝 第3回：占領から独立へ：講和と日米安保条約 第4回：外交の再開と日米安保条約の改定 第5回：高度経済成長と先進国の仲間入り 第6回：戦後の終わり：戦後処理と沖縄返還 第7回：ニクソン・ショック 第8回：先進国間協調への参加：経済大国としての日本 第9回：新冷戦と米ソ対立への関与 第10回：冷戦の終結 第11回：日本外交の迷走と改革 第12回：国際問題への関与：カンボジア和平と北朝鮮問題 第13回：対テロ戦争への参加と論争 第14回：伝統的脅威の復活：北朝鮮・中国・ロシア 第15回：おわりに一戦後日本外交の可能性と限界			
テキスト 五百旗頭真編『戦後日本外交史 第3版補訂版』有斐閣、2014年			
参考書・参考資料等 宮城大蔵『現代日本外交史』中公新書、2016年			

学生に対する評価

重要なテーマを正確に理解しているかを問う各回の小テスト（40%）、および自らの理解を文章で論理的に表現できるかを問う期末レポート（60%）。

授業科目名： 日本政治論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 武田 悠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 主として第二次世界大戦後の日本政治をテーマに、日本の政治の仕組みを理解すること、および日本の政治について他国との違いも踏まえつつ自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。			
授業の概要 日本政治の歴史とそれに関係する政治学上の概念についての解説を通じ、日本政治の歴史と構図を理解するのに必要な知識と考え方を提供する。			
授業計画 第1回：はじめに一政治とは何か 第2回：明治憲法と日本国憲法 第3回：議院内閣制と政党 第4回：軍部 第5回：高度経済成長と日本社会の変化 第6回：55 年体制下の自民党 第7回：55 年体制下の野党 第8回：官僚機構の変遷 第9回：中央と地方の関係 第10回：利益団体と世論の力 第11回：選挙制度改革 第12回：行財政改革 第13回：首相官邸の運用 第14回：民主主義の現在 第15回：おわりに一日本政治の性格			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書、2019年			

学生に対する評価

重要なテーマを正確に理解しているかを問う各回の小テスト（40%）、および自らの理解を文章で論理的に表現できるかを問う期末レポート（60%）。

授業科目名： 国際日本学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口（山田）えり
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：日本の歴史や文化を日本の内側でのみ捉えるのではなく、世界の一部として見直し、世界の人々と日本文化の価値を理解し、共有する視点について検討する。			
到達目標：世界の中の日本という視点で日本研究を行う知識と方法論を身につける。			
授業の概要：本講義では、まず、これまでの日本研究の歴史的流れを概括する。次に、日本の歴史史料の欧米圏での活用について知見を得る。そして、現在、日欧米の研究者が進めている国際プロジェクト「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」の学術交流を通して、日本研究の国際発信のあり方を具体的に学ぶ。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション ―国際日本学とは―			
第2回： 日本研究の歴史① ―東洋の影響―			
第3回： 日本研究の歴史② ―「大航海時代」と日本―			
第4回： 日本研究の歴史③ ―信長・秀吉・家康の「西洋」対策―			
第5回： 日本研究の歴史④ ―西洋の衝撃―			
第6回： 日本研究の歴史⑤ ―日本研究の現在―			
第7回： 国際日本学に関わる特別講義			
第8回： 日本文化の世界への発信			
第9回： 『日本書紀』を英語と日本語で読む			
第10回： 古代の百科全書『延喜式』			
第11回： 英語圏における『延喜式』の研究			
第12回： 国際日本学に関わる史料・資料調査の方法			
第13回： 英語圏との協働研究とその成果			
第14回： 古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究への参加			
第15回： まとめ			
＊受講人数、特別講義の日程、学外環境、また、日本文化に関する重要な出来事が起きた場合など、シラバスの順序・内容は変更します。			
テキスト			

なし。授業中に資料を配布します。
参考書・参考資料等 大隅和雄『日本文化史講義』吉川弘文館、2017年。 その他、授業中に紹介します。
学生に対する評価 授業姿勢（質疑応答など）（20%）や、中間課題（30%）、史料の翻訳（50%）の内容で評価します。

授業科目名： 日本文化史Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口（山田） えり
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 日本文化の諸相のうち、特に信仰形態（神祇信仰・仏教・陰陽道）について考える。 到達目標： 諸外国の様々な文物を柔軟に取り入れて、日本独自の文化へと発展させてきた日本思想の特質を理解できるようになる。加えて、歴史の表から隠れてしまった日本の思想の蓄積が、身近な生活の中にも影響を与えている事象について、学術的見地から考察できるようになる。			
授業の概要： 諸外国の様々な文化を柔軟に取り入れて、日本独自の思想として発展させてきた日本思想について、本講義では、特に神祇信仰・仏教・陰陽道の三つの信仰形態の展開について学ぶ。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション ―日本文化を規定する“信仰形態”とは―			
第2回： 日本における自然・自然現象の崇拝と祭祀・信仰の源流			
第3回： 仏教の伝来と“聖徳太子”			
第4回： 密教の将来 ―最澄―			
第5回： 密教の将来 ―空海―			
第6回： 史書への「怨霊」の出現 ―桓武天皇の苦悩			
第7回： 神への信仰と“予防”の概念			
第8回： 平安時代の諸相と末法思想 ―空也―			
第9回： 浄土の教え ―源信―			
第10回： 陰陽道の成立			
第11回： 「陰陽師」安倍晴明とは			
第12回： 神祇信仰・仏教・陰陽道の使い分け ―祈雨儀礼を題材に―			
第13回： 神祇信仰・仏教・陰陽道の融合 ―雨僧正仁海の祈雨儀礼―			
第14回： 古代の人々の心性 ―災害はなぜ起こるのか―			
第15回： 古代の人々の心性 ―畏怖・不徳・祟・理運―			
＊受講人数、特別講義の日程、学外環境、また、日本文化に関する重要な出来事が起きた場合など、シラバスの順序・内容は変更します。			

テキスト
なし。授業中に資料を配布します。
参考書・参考資料等
『概説 日本思想史〔増補版〕』ミネルヴァ書房（2020年）のうち「古代の思想」の部分。 その他、授業中に紹介します。
学生に対する評価
授業への参加姿勢（質疑応答など）（20％）、最終課題の成績（80％）で評価します。

授業科目名： 国際関係史（アメリカ）Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長 史隆 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、第二次世界大戦から冷戦期までの国際関係の歩みを、アメリカに焦点を当てながら学び、国際関係史についての多角的な理解の涵養を目指す。その際、国家や政治指導者の動向を中心とする伝統的な見方にとどまらず、社会や文化の側面にも目配りしながら、広い視野から歴史を振り返る。また、教員による一方的な授業に終始せず、履修学生が優れた著作（小説を含む）やドキュメンタリーなどにじかに接することで、ある時代や国に生きた（あるいは現に生きている）人々の経験や思いに耳を傾けることを重視する。それによって、単なる歴史の年表的理解ではなく、普段は出会うことのない「他者」に対する理解や共感の力を養うことを目標とする。			
授業の概要 履修者には、事前に配布する所定の文献を読了し、それについての考察（200～800字程度）を授業前日までに提出したうえで授業に臨んでもらう。授業は、課題文献に対する教員による補足説明、および受講者が事前に提出した考察に対する教員の応答、さらにそれらを踏まえたグループ討論を中心に進める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ナチスの台頭とホロコースト① 第3回：ナチスの台頭とホロコースト② 第4回：第二次大戦におけるアメリカ 第5回：日本はなぜアメリカと戦争したのか 第6回：原爆投下の論理と心理① 第7回：原爆投下の論理と心理② 第8回：原爆投下の論理と心理③ 第9回：戦争から他者理解へー文学者ドナルド・キーンの見た戦争と日本 第10回：敗戦国日本にとってのアメリカー少女漫画に映るアメリカ 第11回：冷戦の開始とマッカーシズムー「アメリカ的生活様式」の光と影			

第12回：アジアと欧州での冷戦体制の固定化 第13回：キューバ危機—核戦争の恐怖の高まり 第14回：ベトナム戦争—反共主義の蹉跌 第15回：1968年のグローバルな反体制運動
テキスト 各回の授業前に配布する文献資料
参考書・参考資料等 佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史〔第3版〕』（有斐閣、2017年）
学生に対する評価 毎回の授業前日に提出する考察(50%)／授業内でのグループ討論への積極的参加（10%）／期末レポート(40%)

授業科目名： 比較民族学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉江 貴文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 人文地理学・ 自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：文書と人間の歴史を取り巻く問題について俯瞰的に把握できるようにする。			
到達目標：文書管理実践論の学問的な由来や考え方、方法論的特徴について理解し、その内容を説明できるようになる。			
授業の概要			
文書と人間の歴史を取り巻く諸問題を検討することにより、文書という人工物が人間の生活や思考にどのような影響を及ぼしていったのかを比較民族史の視点から解明する			
授業計画			
第1回：人間はいかにして文書と関わってきたのか？			
第2回：現代社会における「読み書き」と生存			
第3回：リテラシー研究と大分水嶺論争			
第4回：「声の文化」と「文字の文化」をめぐって			
第5回：大分水嶺説への批判とニュー・リテラシー・スタディーズ			
第6回：リテラシー研究から文書管理実践論へ（序説）			
第7回：リテラシー研究から文書管理実践論へ（本論）			
第8回：文書とはどのような道具か？			
第9回：中世ヨーロッパにおける視覚言語の展開			
第10回：現代世界と文書メディア			
第11回：印刷革命以降の文書			
第12回：文書を介した心のキャッチボール			
第13回：文書の洪水のなかを泳ぐ			
第14回：産業社会と文書			
第15回：まとめ：人間と文書の歴史			
定期試験			
テキスト			
中村雄祐 2009 『生きるための読み書き 発展途上国のリテラシー問題』 みすず書房。			
参考書・参考資料等			

齋藤晃編 2009 『テキストと人文学 知の土台を解剖する』 人文書院。

吉江貴文編 2019 『近代ヒスパニック世界と文書ネットワーク』 国立民族学博物館。

学生に対する評価

平常点（セクションごとの課題・小テストなど）60%、期末課題（レポートなど）40%

授業科目名： ラテンアメリカ研究 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉江 貴文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地誌		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ラテンアメリカ世界の成り立ちについて人類学および地域研究の視点から包括的に理解する			
到達目標：歴史的・民族的・文化的に多様なラテンアメリカ世界の実態とその背景について理解し、説明できるようにする			
授業の概要			
歴史的・民族的・文化的に多様な要素で構成されるラテンアメリカ世界の形成がいかんにして進んだのかを、歴史人類学および地域研究の視点にもとづいて考察する。			
授業計画			
第1回：序論 ラテンアメリカ社会と地域研究のアプローチ			
第2回：ラテンアメリカ地域の概要と成り立ち			
第3回：「ラテンアメリカ」という対象設定をすることの意味			
第4回：ラテンアメリカ世界の歴史的由来			
第5回：古代アメリカ人の世界と文明の成立			
第6回：アンデスの空間とスペイン人の自然認識			
第7回：スペイン植民地期—二つの世界の出会いと異文化対話の可能性			
第8回：スペインによるインディアス征服と植民地化事業			
第9回：スペイン帝国—言語の帝国とネブリハの幻想			
第10回：「インディオは人間か？」をめぐる論争			
第11回：ラテンアメリカ社会とメスチソ論			
第12回：国民国家の形成と多民族社会の成り立ち			
第13回：近代における人種的言説と国民的アイデンティティー			
第14回：国民社会の形成と先住民のポジショナリティ			
第15回：20世紀における欧米世界とラテンアメリカ			
テキスト			
国本伊代・中川文雄編 2005 『ラテンアメリカ研究への招待 改訂新版』 新評論。			
参考書・参考資料等			

網野徹也 2018 『興亡の世界史12 インカとスペイン 帝国の交錯』 講談社学術文庫。

清水透 2017 『ラテンアメリカ500年 歴史のトルソー』 岩波書店。

学生に対する評価

平常点（セクションごとの課題・コメント・小テストなど）60%、期末課題（レポートなど）40% の割合でポイント化し、総合評価に基づいて成績を算定する。

授業科目名： 国際安全保障論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 秦野 貴光
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：国際安全保障論における基本的な理論と問題			
到達目標：国際安全保障論における基本的な概念や理論を説明できるようになるとともに、戦争や紛争の原因や平和の条件について様々な角度から説明できるようになる。また、国際関係における戦争・紛争の形態が歴史的にどのように変容してきたのか説明できるようになる。			
授業の概要			
国際安全保障論における基本的な概念や理論について講義し、それらを用いて現代国際関係における戦争や紛争の原因と平和の条件について分析できるようになることを目指す。また、テロリズム、人道的介入、サイバー戦争といった新しい安全保障問題や安全保障に関わる様々な主体（アクター）の登場について講義し、国際関係における戦争や紛争の形態が時代とともにどのように変容してきたのかを説明できるようになることを目指す。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：安全保障の理論1——リアリズムとリベラリズム			
第3回：安全保障の理論2——批判的安全保障研究と安全保障化			
第4回：戦争の諸原因			
第5回：平和の諸条件			
第6回：集団安全保障と国際連合			
第7回：人間の安全保障と開発			
第8回：核抑止と核軍縮			
第9回：「新しい戦争」と非国家主体			
第10回：テロリズムと対テロ戦争			
第11回：人道的介入と平和活動			
第12回：移民・難民問題と安全保障			
第13回：環境問題と安全保障			
第14回：覇権国家の衰退と権力移行			
第15回：サイバー戦争			

テキスト なし
参考書・参考資料等 『入門講義 安全保障論』（宮岡勲著、慶應義塾大学出版会、2020年）
学生に対する評価 授業参加度（質問と感想の内容、30％）、期末レポート（70％）

授業科目名： 開発政治論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 板谷 大世
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：東南アジア諸国が抱える政治的・経済的課題と解決方法の考察			
到達目標：東南アジア諸国が共通して抱える政治・経済的問題を理解した上で、マレーシアが個別に抱える政治・経済的問題を理解できるようになる。			
授業の概要			
・ 本講義では開発政治体制の解説を出発点として、開発政治体制を経験したマレーシアが抱える政治経済的諸問題を理解しこれらの国々に対する理解を深めます。			
・ 東南アジア諸国は第二次世界大戦後に相次いで独立を達成しましたが、政治的にも経済的にも不安定な状態が続きました。こうした状況下で1960年代に相次いで出現した「開発政治体制」や「開発独裁体制」などと呼ばれる政治体制は、その後の政治を安定させ経済発展を支えました。その後、これらの国では「民主化」や「自由化」が進展し民主的な国に移行した国もあれば、明確な政治体制の変化が見えない国もあります。「開発政治論Ⅰ」では理論的な考察を行なった上でマレーシアの戦後の政治を振り返ります。			
授業計画			
第1回：イントロダクション(東南アジア諸国と国造り)			
第2回：発展途上国の政治体制について			
第3回：民主主義体制、権威主義体制について			
第4回：権威主義体制の存続について			
第5回：途上国の抱える政治的・経済問題について			
第6回：政治的課題について(主権の獲得と民主化)			
第7回：経済的課題について(工業化と国民生活の改善)			
第8回：政治的課題と経済的課題の対立			
第9回：開発政治体制出現の国際的背景			
第10回：英領マラヤについて			
第11回：マレーシアの開発政治体制(5月13日事件まで)			
第12回：マレーシアの開発政治体制(5月13日事件以後)			
第13回：マレーシアの開発体制の構造			

第14回：マレーシア政治の現状(開発政治体制は終わったのか)
第15回：前期のまとめ
テキスト なし
参考書・参考資料等 ・岩崎育夫『入門 東南アジア近現代史（講談社現代新書）新書』講談社、2017 年 ・末廣昭(編)『岩波講座 東南アジア史 第9巻「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、2002 年 ・中野亜里(他)『東南アジア現代政治史〔改訂版〕』福村出版、2016 年 ・増原綾子(他著)『はじめての東南アジア政治（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018 年 ・川中豪（他編著）『教養の東南アジア現代史』ミネルヴァ書房、2020 年など。 ・参考資料等は授業中に配布します。
学生に対する評価 ・「平常の成績(平常点)」により成績評価を行います。 ・平常点は授業への参加度（60％）と受講態度（40％）を基本とします。 ・参加度は授業内容を毎回まとめて指定日時までに提出する復習ノートの内容から、受講態度は復習ノートの提出回数から判断します。参加度と受講態度、それぞれで60%以上の評価を受ける必要があります。 ・詳細についての質問には初回の講義の際にお答えします。

授業科目名： 開発政治論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 板谷 大世
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：東南アジア諸国が抱える政治的・経済的課題と解決方法の考察			
到達目標：東南アジア諸国が共通して抱える政治・経済的問題を理解した上で、シンガポール、インドネシア、フィリピン、タイが個別に抱える政治・経済的問題を理解できるようになる。			
授業の概要			
・本講義では開発政治体制の解説を出発点として、開発政治体制を経験した東南アジア諸国が抱える政治経済的諸問題を理解しこれらの国々に対する理解を深めます。			
・東南アジア諸国は第二次世界大戦後に相次いで独立を達成しましたが、政治的にも経済的にも不安定な状態が続きました。こうした状況下で1960年代に相次いで出現した「開発政治体制」や「開発独裁体制」などと呼ばれる政治体制は、その後の政治を安定させ経済発展を支えました。その後、これらの国では「民主化」や「自由化」が進展し民主的な国に移行した国もあれば、明確な政治体制の変化が見えない国もあります。「開発政治論Ⅱ」ではシンガポール、インドネシア、フィリピン、タイの政治を考察します。			
授業計画			
第1回：開発政治体制とは			
第2回：シンガポールの開発政治体制(1965年の独立まで)			
第3回：シンガポールの開発政治体制(1965年の独立以後)			
第4回：シンガポールの開発政治体制(生き残りの政治について)			
第5回：シンガポールの開発政治体制(開発政治体制は続くのか)			
第6回：特別講師によるオンライン授業（シンガポール国立大学 政治学科 ビルビア・シン教授を予定)			
第7回：インドネシアの開発政治体制(9月30日事件まで)			
第8回：インドネシアの開発政治体制(9月30日事件以後)			
第9回：インドネシアの開発政治体制(民主主義体制は根付いたか)			
第10回：フィリピンの開発政治体制(戒厳令布告まで)			
第11回：フィリピンの開発政治体制(民主主義体制は根付いたか)			
第12回：タイの開発政治体制(クーデターと開発政治体制)			

第13回：タイの開発政治体制(半分の民主主義の時代)

第14回：タイの開発政治体制(クーデターと議会制民主主義)

第15回：後期のまとめ

特別講師の都合で日程などが変更される場合があります。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

参考書

- ・リー・クアンユー『リー・クアンユー回顧録』日本経済新聞社、2000年
- ・田村慶子『シンガポールの基礎知識（アジアの基礎知識）』めこん、2016年
- ・佐藤百合『経済大国インドネシア - 21世紀の成長条件（中公新書）』、中央公論新社、2011年
- ・井出 穰治『フィリピン—急成長する若き「大国」（中公新書）』、中央公論新社、2017年
- ・鈴木静夫『物語 フィリピンの歴史』中公新書、1997年
- ・柿崎一郎『物語 タイの歴史』中公新書、2007年
- ・柿崎一郎『タイの基礎知識（アジアの基礎知識）』めこん、2016年
- ・末廣昭『タイ 中進国の模索』岩波新書、2009年
- ・中野亜里(他)『東南アジア現代政治史〔改訂版〕』福村出版、2016年
- ・広島市立大学国際学部 国際政治・平和フォーラム（編）『世界の眺めかた』千倉書房、2014年
- ・増原綾子(他著)『はじめての東南アジア政治（有斐閣ストゥディア）』有斐閣、2018年
- ・川中豪（他編著）『教養の東南アジア現代史』ミネルヴァ書房、2020年など。

参考資料等は授業中に配布します。

学生に対する評価

- ・「平常の成績(平常点)」により成績評価を行います。
- ・平常点は授業への参加度（60％）と受講態度（40％）を基本とします。
- ・参加度は授業内容を毎回まとめて指定日時までに提出する復習ノートの内容から、受講態度は復習ノートの提出回数から判断します。参加度と受講態度、それぞれで60%以上の評価を受けることが必要です。
- ・詳細についての質問には初回の講義の際にお答えします。

授業科目名： Peace and Conflict Studies	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古澤 嘉朗 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：Peace and Conflict in Contemporary World（現代世界における平和と紛争） 到達目標：「平和」や「移行期正義」「和解」「紛争の記憶」「沈黙」などの概念を学ぶ ことで平和紛争研究についての体系的な理解を身に付ける。			
授業の概要 「平和」や「移行期正義」「沈黙」「和解」「紛争の記憶」などの概念に関する講義を行 い、平和紛争研究について体系的な説明・分析ができるようになることを目指す。			
授業計画 第1回：Introduction（はじめに） 第2回：Defining Peace（平和とは） 第3回：Transitional Justice（移行期正義） 第4回：Truth and Reconciliation in post-Apartheid South Africa（ポスト・アパルトヘイト 南アフリカにおける真実と和解） 第5回：Peacebuilding（平和構築） 第6回：Reconciliation（和解） 第7回：Roles of Victim in Peacebuilding（平和構築において犠牲者・生存者が担う役割） 第8回：Silence and Peacebuilding（沈黙と平和構築） 第9回：Conflict Memory（紛争の記憶） 第10回：Memorials and Transitional Justice（記念館と移行期正義） 第11回：Hiroshima as Politics and History（政治と歴史としてのヒロシマ） 第12回：Post-war Reconstruction in Hiroshima（広島市の戦後復興） 第13回：Art and Reconciliation（芸術と和解） 第14回：Apologies After War（戦争後の謝罪） 第15回：Conclusions（まとめ）			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

- Oliver Richmond and Gezim Visoka, eds. (2022) *Palgrave Encyclopedia of Peace and Conflict Studies*. Palgrave Macmillan.
- Roger MacGinty, ed. (2013) *Routledge Handbook of Peacebuilding*. Routledge.
- 授業中に適宜資料も配布する。

学生に対する評価

授業貢献度（議論への貢献度、発言の回数）30%、個別発表（学期中に複数回担当）30%、
期末レポート40%

授業科目名： ミクロ経済学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 史博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標：不完全競争市場、外部性の分析 ミクロ経済学Ⅰで学習した理論フレームの下で、効果的なビジネスの手段、公共政策を選択できるようになる。			
授業の概要 市場環境に応じたビジネス戦略・競争、アクターのインセンティブをふまえた公共政策の効果と限界について学習する。			
授業計画 第1回：完全競争市場の現実性 第2回：独占：独占企業が得る利益と市場全体にもたらす損失 第3回：独占：独占企業による価格戦略 第4回：不完全競争：寡占企業による価格競争（低価格競争が起きる理由） 第5回：不完全競争：寡占企業の生産量決定（OPECが崩壊した理由） 第6回：不完全競争：独占的競争（企業が商品の差別化を図る理由） 中間試験① 第7回：情報の非対称性：保険業者がだまされだまされる理由とその対策 第8回：投機：先物取引や空売りの功罪 第9回：利潤：会計学との解釈の違い 第10回：不確実性：将来が予測できない場合の投資決定とリスクへの対策 第11回：比較優位：日本の食料自給率が低い理由、同居者との家事分担 中間試験② 第12回：負の外部性：環境問題が起きるメカニズム 第13回：負の外部性：直接規制による対策 第14回：負の外部性：経済的インセンティブを活用した対策 第15回：正の外部性：私たちが投票に行かない理由 期末試験			
テキスト なし。配布資料の内容に沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等 グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学Iミクロ編（第3版）』東洋経済新報社 2013年			

スティーヴン・レヴィット他著『ミクロ経済学基礎編』東洋経済新報社 2017年
学生に対する評価
中間試験30点、期末試験30点、授業参加度（積極性など）40点

授業科目名： マクロ経済学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 広雅
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： IS-LM分析、AD-AS分析および財政政策・金融政策におけるこれらのモデルの含意の理解 到達目標： ・ IS-LM分析、AD-AS分析の基本を理解する。 ・ 財政政策と金融政策におけるIS-LM分析、AD-AS分析の含意を理解する。			
授業の概要			
マクロ経済学は、1国全体、あるいは国と国の間においてどのような仕組みで経済が成り立っているかを分析する分野です。マクロ経済学Ⅱでは、マクロ経済学Ⅰの復習をした後、IS-LM分析と総需要・総供給（AS-AD）分析を勉強します。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、イントロダクション			
第2回：マクロ経済学Ⅰの復習：貨幣			
第3回：マクロ経済学Ⅰの復習：国民経済計算			
第4回：マクロ経済学Ⅰの復習：資本市場			
第5回：マクロ経済学Ⅰの復習：国際経済			
第6回：IS-LM分析：基本モデル			
第7回：IS-LM分析：財政政策			
第8回：IS-LM分析：金融政策			
第9回：IS-LM分析：流動性の罠			
第10回：AD-AS分析：基本モデル			
第11回：AD-AS分析：硬直的賃金モデル			
第12回：AD-AS分析：古典派モデル			
第13回：AD-AS分析：フィリップス曲線と短期均衡			
第14回：AD-AS分析：フィリップス曲線と長期均衡			
第15回：まとめと復習			
テキスト			

特定のテキストは使用しません。講義ノートを配布します。

参考書・参考資料等

武隈慎一『マクロ経済学の基礎理論』新世社、1998年

三野和雄『マクロ経済学』培風館、2013年

学生に対する評価

授業参加度（アンケートや教室実験への参加等） 15%

課題提出（3回） 85%

授業科目名： 経済政策論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 広雅
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：独占、寡占、外部性、公共財といった市場の失敗を具体的に学ぶ			
到達目標：			
・なぜ経済政策が必要なのかについて理解する。			
・財市場における政府の行動が社会的な厚生に与える影響を分析できるようになる。			
・公害など外部性を有する財の市場における政府の役割を考える。			
・公共財供給における政府の役割を考える。			
授業の概要			
政府の政策が、経済あるいは社会に及ぼす影響をミクロ経済学的な視点から分析する。			
授業計画			
第1回：市場の失敗と経済政策の必要性			
第2回：需要と供給の理論			
第3回：政府の介入と市場均衡			
第4回：企業行動と生産者余剰			
第5回：消費者行動と消費者余剰			
第6回：価格規制と取引規制			
第7回：取引に対する課税と補助金			
第8回：独占均衡			
第9回：寡占市場			
第10回：負の外部性			
第11回：ピグー税			
第12回：市場の創設			
第13回：コースの定理			
第14回：公共財の定義			
第15回：ただ乗り問題			
テキスト			
特定のテキストは使用しません。講義ノートを配布します。			

参考書・参考資料等

井堀利宏『経済政策』新世社、2003年

学生に対する評価

授業参加度（アンケートや教室実験への参加等） 15%

課題提出（3回） 85%

授業科目名： 開発社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：目黒紀夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：開発社会学の基礎となる概念・理論の実践的な習得 到達目標：開発社会学の基礎となる概念・理論を理解し、それらの概念や理論を実際に用いることができるようになる。			
授業の概要 開発社会学の基本的な特徴を講義した上で、その基礎となる概念・理論として参加（型開発）、社会関係資本、（住民）組織化、エンパワーメントについて順に講義をする。それぞれの概念・理論について、講義の後に関連する文献を読む。そして、講義と文献を踏まえて、自分たち（が暮らす社会）を対象としてそれらの概念を実際に用いて調査をする演習を行なう。			
授業計画 第1回：開発社会学の特徴 第2回：参加（1）——概念と理論の講義 第3回：参加（2）——文献の精読と調査の立案 第4回：参加（3）——調査の実践／結果の分析 第5回：社会関係資本（1）——概念と理論の講義 第6回：社会関係資本（2）——文献の精読と調査の立案 第7回：社会関係資本（3）——調査の実践／結果の分析 第8回：住民組織化（1）——概念と理論の講義 第9回：住民組織化（2）——文献の精読と調査の立案 第10回：住民組織化（3）——調査の実践／結果の分析 第11回：エンパワーメント（1）——概念と理論の講義 第12回：エンパワーメント（2）——文献の精読と調査の立案 第13回：エンパワーメント（3）——調査の実践／結果の分析 第14回：その他の重要な概念・理論 第15回：総括——開発社会学「らしさ」を考える			
テキスト			

『参加型開発の再検討』（佐藤寛編、アジア経済研究所、2003年）、『援助とエンパワーメント——ソーシャルキャピタル論の可能性』（佐藤寛編、アジア経済研究所、2001年）、『援助と住民組織化』（佐藤寛編、アジア経済研究所、2004年）、『援助とエンパワーメント』（佐藤寛編、アジア経済研究所、2005年）

参考書・参考資料等

授業中に適宜、資料を配付する。

学生に対する評価

学期末のレポート：40%

授業内の演習（各概念・理論に関する調査の計画・実行、合計4回）：60%（各15%）

授業科目名： エスニシティと宗教Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田浪 亜央江
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：エスニシティと宗教に関わる問題の歴史的起源の概観と考察			
到達目標：エスニシティと宗教に関わる主要な問題や議論を比較の視点から理解し、さまざまな地域や歴史的背景におけるエスニシティと宗教に関わる問題のなかに浮上する共通点と差異を切り口に、現代世界の諸問題を扱うためのリテラシーを養う。			
授業の概要			
地域や背景を異にする複数のエスニック・マイノリティの具体的な事例を取り上げ、エスニシティとは何かを考える。場所や歴史的背景を異にする事例を相互に参照・比較することをとおして、文化的アイデンティティと統合、マイノリティ社会におけるマイノリティ、ナショナルリティと国籍、脱植民地下における宗教の役割といった問題を考える。			
授業計画			
第1回：エスニック・マイノリティと宗教 概論			
第2回：在日コリアンとは何者か			
第3回：「イスラエルのアラブ人」と在日コリアン・共時的視点			
第4回：在日コリアンの教育と言語			
第5回：イスラエルのアラブ人と言語・文化			
第6回：在日コリアンの法的立場			
第7回：イスラエルのアラブ人の国籍と市民権			
第8回：植民地下における詩的抵抗：尹東柱の詩と言葉をめぐって			
第9回：植民地支配と宗教			
第10回：マイノリティの「名前」をめぐって			
第11回：マイノリティと言葉・言語			
第12回：在日コリアン社会における宗教・イスラエルのアラブ社会における宗教			
第13回：難民・無国籍・二重国籍			
第14回：まとめ：思想としてのマイノリティ			
第15回：授業内課題論文作成			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 授業中に関連するテキストを適宜配布する。
学生に対する評価 平常点（講義後に毎回提出するコメントの内容）40%、課題論文の提出60%

授業科目名： 社会文化思想史Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上尾 真道
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：近代社会における「トラウマ」概念の思想的意義			
到達目標：「トラウマ」概念の歴史について説明できるようになるとともに、この概念を参照しながら現代の人間社会について説得的に論じることができるようになる。			
授業の概要			
本講義を受講する学生は、トラウマ概念の様々な語られ方について歴史的に辿り、その意義や社会的機能について幅広い知見を得る。さらに、トラウマと現代の生の関係について思想的に掘り下げ、自身の考えを発展させる。			
授業計画			
第1回：導入——「トラウマ」とは何か			
第2回：産業社会とトラウマ			
第3回：フロイトのトラウマ概念			
第4回：ジャネのトラウマ概念			
第5回：第一次大戦とトラウマ			
第6回：第二次大戦とトラウマ			
第7回：ベトナム戦争とPTSD			
第8回：災害と集団的トラウマ			
第9回：ショック作用とトラウマ			
第10回：「ヴェルネラビリティ」とトラウマ			
第11回：トラウマと後悔			
第12回：誕生のトラウマ			
第13回：トラウマの肯定			
第14回：トラウマと再生			
第15回：まとめ			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜、指示する。
学生に対する評価 授業内のミニレポート：50%、最終期末レポート：50%

授業科目名： 共生の哲学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上尾 真道
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：近代の隔離差別についての批判的思考			
到達目標：近代の精神医療の歴史を軸に、隔離・差別の具体例について知識を獲得するとともに、フーコーの議論を参照しつつ、その乗り越えという課題を自分で考えることができるようになる。			
授業の概要			
本講義を受講する学生は、近代的隔離の歴史的事例について、フランスの哲学者ミシェル・フーコーによる精神医療史の分野での批判的研究を参照しながら学ぶ。さらにその上で、セクシュアリティや障害など、多様性の尊重と関わる現代的な論点について知識を獲得しながら、こんにちの共生の実現のための課題を整理し、検討する。			
授業計画			
第1回：隔離の時代としての近代			
第2回：「狂気」の排除			
第3回：強制入院と「異常者」			
第4回：変質論と人種主義			
第5回：「生きるに値しない命」問題			
第6回：強制収容所			
第7回：植民地の精神医療			
第8回：脱施設化の時代			
第9回：精神医学権力			
第10回：セクシュアリティの装置			
第11回：監獄と規律権力			
第12回：新たな人種差別			
第13回：発達障害と現代社会			
第14回：「アイデンティティ」と多様性			
第15回：まとめ			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 授業中に適宜、指示する。
学生に対する評価 授業内のミニレポート：50%、最終期末レポート：50%

授業科目名： 学校インターンシップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：ト部 匡司 三吉 和彦 担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ 学校インターンシップとして総計で60時間以上の学校支援活動に従事する。 ①学生は、児童生徒および学校の教職員との関係構築の中で、人間的成長や社会意識の向上を目指す。（協調性） ②学生は、学校の日常的な業務、教育補助、課外活動などを直接体験することを通して、自己の適性を把握し将来の職業生活への見通しを立てる。（主体性）			
授業の概要 実習では、各学校の校長等の指導・助言による児童生徒への継続的・計画的な支援を通して、将来教員を志望する意欲・情熱を持った学生が教育活動に対する理解をより一層深めるとともに、資質・能力を向上させることを目指す。また教員を志望する学生の支援を通して、学校教育活動の一層の活性化を図る。			
授業計画 履修者は、次に示すような教育活動を、校長の指導・助言のもとに支援する。活動時間は総計で60時間以上の活動時間（事前・事後指導、授業準備などの諸活動を含む）とする。 ・各教科・領域等の指導における補助（総合的な学習の時間や学校行事等を含む） ・学級担任の補助 ・放課後における児童生徒の学習支援・学習相談 ・図書の読み聞かせ・図書館運営補助 ・I C T支援に関わること ・日本語指導が必要な児童生徒の学習支援 ・その他、校長が本事業の趣旨から適当と認める活動 【事前指導】オリエンテーションと事前指導 ・活動計画書作成 ・学校インターンシップの目的、概要、手続き ・守秘義務、学校に入るときに注意事項 ・学校の意義、現在の子どもをとりまく環境、大学と学校の連携による地域づくり 【事後指導】活動報告会と事後指導 ・活動報告のプレゼンテーション（関心のある学生に公開する） ・反省点と意見交換 ・アンケート調査 ・教員による講評			
テキスト：資料配付			
参考書・参考資料等 事前・事後指導において適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

報告書（活動日誌、学生の活動報告、学校からの活動報告など） 70%

報告会（プレゼンテーション） 30%

授業科目名： 教職特講		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三吉 和彦 担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業の到達目標及びテーマ 教育に関する知識・理論を踏まえて、これからの教育をめぐる諸改革の動向を理解する。そして、学校、教師、教育の在り方について考えることができる。				
授業の概要 この講義は、本学が独自に設定した科目であり、教職の意義、教育の基礎理論、教育課程及び指導法など、これまでに学習した内容をさらに補充・深化・統合するに、今般の学校教育の成果と課題について、中央教育審議会の答申、文部科学省及び広島市教育委員会の教育行政施策等を中心にして探り、これからの学校、教師、教育の在り方について考察する。なお、受講する学生の学習要望も考慮する。				
授業計画 第 1 回：令和の日本型学校教育の構築を目指して（令和3年1月）（1）総論 第 2 回：〃（2）各論1 幼児教育の質の向上 第 3 回：〃（3）各論2 9年間を見通した新時代の義務教育の在り方 第 4 回：〃（4）各論3 新時代に対応した高等学校教育等の在り方 第 5 回：〃（5）各論4 新時代の特別支援教育の在り方 第 6 回：〃（6）各論5 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方 第 7 回：〃（7）各論6 ICT の活用・学びを支える環境整備 第 8 回：〃（8）各論7 学校運営・学校施設・教師及び教職員組織の在り方 第 9 回：令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について（令和4年12月）（1）総論 第10回：〃（2）各論① 教師に求められる資質能力 第11回：〃（3）各論1 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成 第12回：第4期教育振興基本計画（令和5年6月）（1）現状・課題・展望・基本方針 第13回：〃（2）5年間の教育政策の目標と基本施策 第14回：広島市教育委員会行政施策（1）広島市教育大綱と様々な取り組み 第15回：広島市教育委員会行政施策（2）広島市教育センター 教職員研修の取り組み 定期試験				
テキスト：以下2つの中央教育審議会答申（※文部科学省HPからダウンロード） ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（令和3年1月26日） ・『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成（令和4年12月19日）				
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。				
学生に対する評価 論述形式のレポート試験（50％）、各授業後のふり返しシート（30％） 授業参加への主体性（参加意欲・協議態度等）（20％）				

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 時津 啓
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
教員免許取得に必要な「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に対応する科目である。本授業のテーマは、教育の基本的概念を理解し、教育の理念が有する歴史的含意や構成過程を学修する。さらに、教育の目的や目標と学校教育の歴史や学校の捉え方の変化との関連を理解し、それがどのように変化したのか。学校教育の歴史を学び、現代における教育問題や教育思想の特徴を理解する。また問題解決学習や参加型メディア教育を手がかりにして、学校における教授—学習論の在り方を歴史的に理解し、教育思想との関係を理解する。 具体的な到達目標として次の点の理解を掲げる。 ①教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標 ②子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 ③歴史的視点に基づく現代社会の教育課題の特徴と改善への取り組み ④家族と社会による教育の歴史 ⑤学校や学習、家庭や子供に関わる教育の思想 ⑥代表的な教育家の思想 ⑦近代教育制度・方法の成立と展開			
授業の概要			
西洋とわが国における教育の理念、教育思想の歴史的、思想史的展開を手がかりに、教育思想や学校や家族、社会における教授—学習の本質を理解する。さらに、それを通して正しい教育観や子ども観、学校観を形成する。加えて、問題解決学習や参加型メディア教育における学びを手がかりに、学習の意義や学校における教授—学習の在り方を具体的に理解する。			
授業計画			
授業計画			
第1回：教育の本質・基本概念—これまでの教育・学習経験から「教育とは何か」を考える			
第2回：教育の目的・目標論（1）—教育の目標・目的の本質とその機能			
第3回：教育の目的・目標論（2）—わが国の教育法規における教育の目標とその歴史的意味			
第4回：教育における思想（1）—近代以前～近代			
(コメニウス、ルターからペスタロッチー、フレーベルへ)			
第5回：教育における思想（2）—近代の子ども観を中心に（ルソーとアリエス）			

第6回：教育における思想（3）—現代（構造主義、ポストモダン） 第7回：近代における学校の成立と展開（1）—西洋の学校の成立と展開（イギリスを中心に） 第8回：近代における学校の成立と展開（2）—西洋の学校改革（イギリスの新教育を中心に） 中間課題レポートの指定 第9回：我が国の学校の成立と展開（1）—明治以降の学校教育（修身と近代化） 第10回：我が国の学校の成立と展開（2）—戦後の学校教育の特徴（国民の教育権論を中心に） 第11回：学校の機能、家庭、教員の相互連携（1）—家庭、学校、教員の相互関連 第12回：学校の機能、家庭、教員の相互連携（2）—学校、家族の機能と幼児・児童 第13回：教授—学習理論とその実際（1）—参加型メディア教育と主体的学び 第14回：教授—学習理論とその実際（2）—話し合い活動と問題解決学習 第15回：教授—学習理論とその実際（3）—いじめ、不登校と学習 最終課題レポートの指定 テストなし
テキスト なし。適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 小笠原道雄他編（2008）『教育学概論』福村出版 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）
学生に対する評価 各授業での課題への取り組み内容（40%）中間課題（30%）最終課題レポート（30%）

授業科目名： 教師論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三吉 和彦 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ				
教員の職務内容や採用状況、現代の学校や教員が抱える問題などの考察を通して、教職で求められる基本的な資質を養うとともに、自身のキャリアとして教職を選択するかどうか、その判断に資する学びを積み重ねる。また、学生自身が進路選択や学修の方向性に見通しをもつ。				
授業の概要				
この授業は、教育職員免許法施行規則で定められた「教育の基礎的理解に関する科目」のうち「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）」に関する学びを重ねるものである。本授業での学びを通して、教職の意義や教員の役割、教員の服務や職務に関する内容をはじめ、これからの教師として求められる様々な資質・能力に関する具体的・実践的な内容を学び、「チーム学校」の一員としてのやりがいと責任について理解を深める。				
授業計画				
第 1 回：教職の魅力「わたしはこんな教師になりたい」				
第 2 回：日本の教職の特徴「学校教育の役割と責任」				
第 3 回：教師像の史的展開「教職の専門性とは」				
第 4 回：教員の服務・規律と権利・身分保障・「働き方改革」				
第 5 回：学び続ける教師				
第 6 回：教師として求められる資質・能力（1）児童生徒理解、自尊感情				
第 7 回：教師として求められる資質・能力（2）人権感覚、合理的配慮				
第 8 回：教師として求められる資質・能力（3）アサーティブなコミュニケーション				
第 9 回：教師として求められる資質・能力（4）組織の中での協働性と校務分掌				
第10 回：教師として求められる資質・能力（5）生徒指導・教育相談、保護者対応				
第11 回：教師として求められる資質・能力（6）「学び」観、授業づくり、学級経営				
第12 回：教師として求められる資質・能力（7）ファシリテーション、関係機関連携				
第13 回：教師の専門性「一人の人間として、社会人として、教育のプロとして」				
第14 回：共生社会を目指す教師の在り方「学校教育を巡る様々な問題とこれからの教師」				
第15 回：学校教育の役割と責任「わたしは教師になることを目指すのか」				
定期試験				
テキスト：『現代の教師論』（佐久間亜紀・佐伯胖編著、ミネルヴァ書房）				
参考書・参考資料等：授業中に適宜資料を配付する。				
学生に対する評価：論述形式のレポート試験（70％）、各授業後の振り返りシート（30％）				

授業科目名： 教育経営学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三吉和彦 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 主体的で対話的な深い学びを創造する学校教育について、教育や学校を形づくる制度や仕組み等を理解するとともに、すべての人が安全で安心して学ぶことができる学校づくりについて、具体的な学校経営実践の事例を考察し、総合的かつ多面的に理解する。				
授業の概要 学校教育に焦点を当て、日本の教育について「経営」という側面から考察を進めていく。まず、わが国の学校教育制度や教育関連法規を中心にして、教育の目的や目標に基づき、教育実践をより効果的に行っていくための、学校の組織と管理・運営等について学ぶ。次に、効果的な学校運営が展開されるための、学校経営の実際と学校評価を中心にしたPDCA サイクル等について学ぶ。さらに、これからの教育経営（学校経営）の在り方を学校と地域や関係機関の連携、学校安全等の観点から学ぶとともに、学校や子どもを巡る様々な今日的課題について考察する。				
授業計画 第 1 回：教育制度の基礎理論 第 2 回：教育経営という概念の理解 第 3 回：学校制度と学校の管理・運営 第 4 回：児童生徒の就学と管理 第 5 回：教職員の人事管理 第 6 回：教育内容・教育課程 第 7 回：学校組織論 第 8 回：教師の成長と研修 第 9 回：学校評価と学校改善 第 10 回：学校安全への対応 第 11 回：保護者、地域、関係機関等との連携 第 12 回：学校経営の実際 人権尊重の精神を基盤とした学校づくり（1）チーム学校 第 13 回：学校経営の実際 人権尊重の精神を基盤とした学校づくり（2）学びを育てる 第 14 回：学校や子どもを巡る今日的課題（1）生徒指導上の諸課題 第 15 回：学校や子どもを巡る今日的課題（2）学力格差、貧困・虐待、ジェンダー、共生社会構築 定期試験				
テキスト：諏訪英広・福本昌之編著『新版 教育制度と教育の経営』（あいり出版、2021年）				
参考書・参考資料等：授業中に適宜資料を配付する。				
学生に対する評価：論述形式のレポート試験（70％）、各授業後のふり返しシート（30％）				

授業科目名： 教育心理学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：丸山愛子	
						担当形態：単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
授業の到達目標及びテーマ							
児童・生徒の心身の発達の過程及び各発達段階の特徴について、基礎的な知識を身につける。また、児童・生徒の学習に関する基礎的な知識を理解し、児童・生徒の発達を踏まえた学習支援及び指導について基礎的な考え方を理解する。以上2点が講義の主なねらいです。							
授業の概要							
教育心理学の主要なトピックに関する基礎的な知識を概説します。また、教育心理学の研究手法を紹介します。映像教材なども含めながら、「発達」、「学び」、「適応」を主要な課題として、それらに関連する研究紹介を行います。自分や社会の諸問題および先行研究から得られる知識を日々の生活においてどのように生かせるか、についてともに考えます。「他者を支援」するだけでなく、いかに「自己を支援するか」についても解説します。「教育」という領域に限定されないで、生涯の日常生活において有効に活用できる授業内容を目指します。 グループ討議、ロールプレイなどを行いますので、積極的に取り組んでください。							
授業計画							
第 1回：オリエンテーション（担当：丸山） 教育心理学の考え方、子どもの心身の発達と学習、児童・生徒の学びと適応を支える教師							
第 2回：教師とは、第12章 教師の成長（担当：丸山） 教師の役割、教える、動機づける、集団の育成、子どもと教師の適応							
第 3回：第1章 教育心理学：学びと適応を支える（担当：丸山） 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 多様なアプローチから（成熟論的・行動主義的・構成主義的・認知心理学的・社会主義的）							
第 4回：第2章 乳幼児期から青年期までの学びの場とその移行（担当：丸山） 家庭・保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学における心身の発達と学び							
第 5回：第3章 学びの理解① 乳幼児期から青年期までの心身の発達（担当：丸山） 児童・生徒の社会性の発達							
第 6回：第3章 学びの理解② 乳幼児期から青年期までの心身の発達と学びの意欲（担当：丸山） 主体的学習を支える動機づけ（内発的・外発的動機づけ）、原因帰属、学習された無力感							
第 7回：第4章 学びの理解 乳幼児期から青年期までの心身の発達と学びのしくみ（担当：丸山） 乳幼児期から青年期の記憶、メタ認知、学習スキル、主体的な学びを支える自己制御学習							
第 8回：第5章 学びの理解③ 児童・生徒の認知発達と学びの諸相（担当：丸山）							

第 9回：第3,6,11章 学びの支援① 児童・生徒の発達に影響する要因（担当：丸山） 学習形態、授業づくり、学びの体系化、カリキュラム開発と評価、学習目標と評価 第10回：第7章 学びの支援② 児童・生徒の主体的な学びを支える指導（担当：丸山） 発見学習、有意味受容学習、仮説実験授業、協同学習、プロジェクト学習など 第11回：第8章 学びの支援③ 集団と個に応じた学びへの支援、子どもの発達と学び（担当：丸山） プログラム学習、完全習得学習、習熟度別学習、小集団学習、ティーム・ティーチング 第12回：第9章 適応の理解と支援①（担当：丸山） 乳時期、幼児期における発達課題と適応、子どもへの虐待の現状と対策 第13回：第9,10章 適応の理解と支援③（担当：丸山） 児童期、青年期における発達課題と適応、発達障害の特徴と対応 第14回：第10章 適応の理解と支援②（担当：丸山） いじめ、不登校、非行の理解と対応、カウンセリングについて 第15回：第11,12章 適応の理解と支援③（担当：丸山） 学びと適応の評価、教師の成長、発達と環境 定期試験は実施しない
テキスト やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる教育心理学 著者 中澤潤[千葉大学]編 ISBN:978-4-05194-5 価格 2500 円 出版社 ミネルヴァ書房（2008 年初版、2011 年第 5 版）
参考書・参考資料等 適宜紹介します。
学生に対する評価 4回の課題提出物（70％）と授業中に提出させる課題（30％）により総合的に評価します。

授業科目名： 特別支援教育論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：三吉 和彦 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ 障害等の様々な困り感を背景とした特別の教育的ニーズもち、特別の支援を必要とする子どもが安心して生活したり、参加している実感をもって学んだりすることを通して、生きる力を身につけることができるよう、子どもの生活や学習上の困難を理解し個別の教育的ニーズに対して他の教職員や関係機関等と連携しながら組織的に対応できるように必要な知識と具体的な支援方法を理解する。				
授業の概要 障害等の様々な困り感をもつ子どもも含めたすべての子どもの資質・能力の育成を目指し、障害を理解すること、障害のある彼らの様々な困難さを想像すること、そして、一人の人間として生活・学習している存在として尊重することを基本としたインクルーシブ教育の理念について学ぶ。また、根拠となる法や制度・通知・答申、教育課程の枠組み、合理的配慮や基礎的環境整備、支援方法の実際、他の教員や関係機関と連携した組織的に対応等について、学校経営、学年・学級経営、授業づくり等の視点から具体的実践をもとに特別支援教育の在り方について学ぶ。				
授業計画 第1回：インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育の理念 第2回：発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする子どもの理解と支援 第3回：特別支援教育に関する学習指導要領の規定と教育課程 第4回：特別支援学校、特別支援学級、通級による指導と「自立活動」 第5回：発達障害等のある子どもの個別の指導計画・個別の教育支援計画 第6回：合理的配慮と基礎的環境整備 第7回：通常の学級における特別支援教育の実際 第8回：障害はないが特別の教育的ニーズのある児童等の学習上又は生活上の困難とその対応 定期試験				
テキスト：教科書は使用せず、学習に必要な資料を適時配付する。				
参考書・参考資料等：授業中に適宜資料を配付する。				
学生に対する評価：論述形式のレポート試験（70％）、各授業後のふり返しシート（30％）				

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ト部 匡司
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
この講義では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。講義を通して、学生は、教育課程の意義および教育課程編成に関する基本的な法令、教育課程編成の方法に関する基本的な理論について理解し、子どもたちの豊かな学びを促進する教育課程を構想できるようになることを目指す。			
授業の概要			
この講義は、教育職員免許法施行規則で定められた「教育の基礎的理解に関する科目」のうち、「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」に関する内容を扱うものである。			
授業計画			
第1回：教育課程とは何か			
第2回：日本の学校の教育課程の歴史的変移			
第3回：現代日本の教育課程の歩み：学習指導要領の変遷			
第4回：教育課程の思想と構造			
第5回：教育課程の編成原理			
第6回：現行学習指導要領の理念：生きる力と社会に開かれた教育課程			
第7回：教育課程の評価とカリキュラム・マネジメント			
第8回：教育課程編成の今日的課題			
テキスト			
『中学校・高等学校学習指導要領』（文部科学省）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
論述形式のレポート試験（85％）、各講義中に課す課題と発表（15％）			

授業科目名： 道徳教育論		教員の免許状取得のための 必修科目（中学校のみ）	単位数： 2 単位	担当教員名：三吉 和彦 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間帯の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ 道徳の理論と指導法について、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、及びその要となる道徳科の目標・内容・指導計画等を理解し、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業の体験を通して実践的な指導力を身に付ける。				
授業の概要 道徳の本質や、道徳教育の歴史、いじめ・規範意識・情報モラルなどの道徳教育の課題、道徳性の発達、学習指導要領における道徳教育の目標・内容、多様な指導方法、教科書教材の特徴、道徳科の指導案作成や評価の考え方について学ぶ。また、特別の教科道徳の授業づくりに関して、読み物資料から授業を構想し（指導案を作成し）、代表者による模擬授業を観察・検討するとともに、代表者の授業や事前事後の取り組みについてふり返り、道徳の授業づくりに関する実施・改善の視点を身に付ける。				
授業計画 第 1 回：ガイダンス「道徳科の授業を学びの場に」～道徳科授業の体験～ 第 2 回：道徳教育の歴史「修身科・特設の道徳の時間・道徳科」 第 3 回：道徳教育と道徳科 ～学習指導要領の規定～ 第 4 回：子どもの道徳性の発達と「道徳的価値」 第 5 回：道徳科の教材分析・教材研究「読み物資料の役割」 第 6 回：道徳科の授業づくり（1）資料分析、学習過程、ペア・グループ活動、ワークシート等 第 7 回：道徳科の授業づくり（2）発問、役割演技、板書、説話（ふり返り）、評価等 第 8 回：道徳科学習指導案について（1） 第 9 回：道徳科学習指導案について（2） 第 10 回：模擬授業1 代表授業の実施と授業後のカンファレンス 第 11 回：模擬授業2 代表授業の実施と授業後のカンファレンス 第 12 回：道徳の授業づくりと学級経営 第 13 回：学校の教育活動全体を通じた道徳教育の展開 第 14 回：いじめ問題と道徳教育 第 15 回：道徳・道徳教育とは～まとめ～ 定期試験は行わない				
テキスト：教科書は使用せず、学習に必要な資料を適時配付する。				
参考書・参考資料等 ・小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 ・その他、授業中に適宜資料を配付する。				
学生に対する評価 各授業後のふり返りシート（30％）、道徳科学習指導案の作成（50％） 授業参加への主体性（参加意欲・協議態度等）（20％）				

授業科目名： 総合的な学習の時間論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 卜部 匡司
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
この講義では「総合的な学習（探究）の時間」における教科横断的・総合的な学習の意義、理論や方法、教育活動の展開に必要な基礎的知識等を学習し、「総合的な学習（探究）の時間」の実践に必要とされる力量を獲得する。とりわけ、教科の枠を超えた学習活動について理論的、歴史的に検討したうえで、適宜グループワークを取り入れ、実際の学校現場の事例について学ぶとともに、教材研究、授業案・活動案の作成などの方法を習得する。			
授業の概要			
この講義は、教員免許状の取得を希望する学生を対象としたものであり、教育職員免許法施行規則で定められた「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」のうち、「総合的な学習の時間の指導法」に関する内容を扱うものである。			
授業計画			
第1回：「総合的な学習／探究の時間」の概要			
第2回：「総合的な学習／探究の時間」の目標、意義および背景			
第3回：教育課程における「総合的な学習／探究の時間」の位置づけ			
第4回：「総合的な学習／探究の時間」の系譜と各国での取り組み			
第5回：「総合的な学習／探究の時間」の計画、実践および評価の流れ			
第6回：「総合的な学習／探究の時間」での教材研究と活動計画、授業案作成、活動の評価			
第7回：「総合的な学習／探究の時間」の授業案・活動案の発表			
第8回：「総合的な学習／探究の時間」で求められる教師の力量			
テキスト			
『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（文部科学省）			
『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（文部科学省）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
論述形式のレポート試験（85％）、授業案・活動案の制作と発表（15％）			

授業科目名： 特別活動論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：三吉 和彦 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 学校教育活動全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、校種や学年の違いによる活動の変化やそれぞれの活動の特質及び実際の活動内容について理解する。また、特別活動の特質に基づく、教職員協働や保護者・関係機関・地域住民等との連携による組織的な指導の在り方について理解する。				
授業の概要 特別活動とは何なのかということ、その構造や特徴から学ぶことをからはじめ、特別活動の構造を分析することでその特徴を考察し、特徴を明らかにすることによって特別活動を実践するうえで、何を目的にどのような内容にすればよいか、また、どのような方法で実施できるかを、実際の学校現場における特別活動の事例について学び、適宜グループワークを取り入れ、実際の活動内容や指導方法等について、学習者相互の対話や意見交流によって学び合う。				
授業計画 第1回：特別活動とは ～構造と特徴～ 第2回：特別活動の目標及び主な内容 第3回：教育課程の位置づけと各教科等との関連 第4回：学級活動・ホームルーム活動の特質と実践 第5回：児童会活動・生徒会活動の特質と実践 第6回：クラブ活動・学校行事の特質と実践 第7回：特別活動の評価と改善 第8回：特別活動の指導の実際 ～活動指導計画案の作成とまとめ～ 定期試験				
テキスト：教科書は使用せず、随時プリントを配布する。				
参考書・参考資料等： ・小学校学習指導要領解説 特別活動編、中学校学習指導要領解説 特別活動編 ・その他、授業中に適宜資料を配布する。				
学生に対する評価 論述形式のレポート試験（70％）、各授業後のふり返りシート（30％）				

授業科目名： 教育方法・技術論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ト部 匡司
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 この講義では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。講義を通して、学生は、授業の方法・技術の歴史、主要な理論、今日の課題、授業の準備、計画、実施、評価の理論と方法、授業研究の方法について説明でき、教材制作ができるようになることを目指す。			
授業の概要 この講義は、教育職員免許法施行規則で定められた「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」のうち、「教育の方法及び技術」に関する内容を扱うものである。			
授業計画 第1回：授業の方法・技術と教育方法学 第2回：授業方法の歴史的発展（西洋・日本） 第3回：授業の理論とモデル 第4回：視聴覚教育の歴史と理論 第5回：今日の授業方法の課題および授業研究の方法 第6回：授業の準備・計画・実施・評価 第7回：教材の制作 第8回：教材の発表			
テキスト 『中学校・高等学校学習指導要領』（文部科学省）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 教材研究レポート（85%）、各講義中に課す課題と発表（15%）			

授業科目名： 情報通信技術を活用した教育の理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ト部 匡司 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 この講義では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。講義を通して、学生は、情報技術を活用した教育の理論と方法について説明でき、パワーポイントをはじめ、デジタル教材などを活用しながら教材を制作して授業を実施できるようになることを目指す。			
授業の概要 この講義は、教育職員免許法施行規則で定められた「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」のうち、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に関する内容を扱うものである。			
授業計画 第1回：現代社会における情報通信技術の歴史と役割 第2回：教育における情報通信技術とデジタルコンテンツの活用 第3回：特別支援教育や幼児教育における情報通信技術の活用 第4回：個別最適な学びと対話的な学びのための情報通信技術の活用 第5回：生徒による情報通信技術の活用とプログラミング教育 第6回：情報モラルと情報セキュリティ教育・校務のデジタル化 第7回：オンライン授業（遠隔による授業や学習）の教材制作 第8回：オンライン授業（遠隔による授業や学習）の実践			
テキスト 『中学校・高等学校学習指導要領』（文部科学省）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 オンライン教材研究レポート（85％）、各講義中に課す課題と発表（15％）			

授業科目名： 生徒・進路指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米沢 崇
				担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間帯の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める		生徒指導の理論及び方法		
科目区分又は事項等		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ				
1) 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 2) 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。				
授業の概要				
本講義では、中学校・高等学校における生徒指導・進路指導（キャリア教育含む）の教育的意義や課題について理解を深め、生徒指導・進路指導の理論と方法に関する基本的知識を獲得することを目指す。講義においては、中学校・高等学校における生徒指導・進路指導の具体的な事例を取り上げ、講義、グループワーク、ケースカンファレンス等を実施する。				
授業計画				
第1回：生徒指導の教育的意義と課題				
第2回：生徒指導に関する基礎理論				
第3回：生徒理解（1）：青年期の発達の視点				
第4回：生徒理解（2）：アセスメントの実際				
第5回：グループワーク（1）：非社会的行動を中心に				
第6回：常態的・先行的生徒指導の取り組み（1）：教師と生徒、生徒同士の人間関係を中心に				
第7回：グループワーク（2）：反社会的行動を中心に				
第8回：常態的・先行的生徒指導の取り組み（2）：学級づくりを中心に				

第9回：常態的・先行的生徒指導の取り組み（3）：家庭・地域と連携した学校づくりを中心に

第10回：進路指導・キャリア教育の必要性和教育的意義

第11回：進路指導・キャリア教育に関する基礎理論

第12回：グループワーク（3）：現代の子どもが抱える進路・キャリアをめぐる問題を中心に

第13回：中学校における進路指導・キャリア教育の実践例

第14回：高等学校における進路指導・キャリア教育の実践例

第15回：まとめと振り返り：これからの生徒指導と進路指導

テキスト（○印はWebでダウンロード可）

○文部科学省「生徒指導提要」，2022年。デジタルテキスト・バージョン第1.0.1版

○文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」教育出版，2012年。

○文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」教育出版，2012年。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

5回以上欠席した場合は成績判定を行わない（不可とする）。各回の授業後に実施する受講確認課題(30%)と最終レポート(70%)で総合的に判定する。

授業科目名： 教育相談論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今江 秀和
				担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ				
学校における教育相談の意義と理論を理解する。教育相談を進める上で必要な基礎知識、カウンセリングの基本的姿勢、技法を理解する。学校組織の中での教育相談の進め方、ポイントについて理解する。以上3点が講義のねらいです				
授業の概要				
学校における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な知識について概説します。また、教育相談を進める上で必要な基礎知識として、生徒の不適応や問題行動の意味、そうした問題の予防と対応のために必要なカウンセリングの姿勢と技法についてロールプレイやグループ討議を交えながら体験的に学んでいきます。さらに教育相談が学校という組織の中で行われるものであること、その中での教育相談の進め方、連携の意義について解説します。				
ロールプレイやグループ討議を行いますので、積極的に取り組んで下さい。				
授業計画				
第1回：イントロダクション・教育相談の基礎知識				
第2回：カウンセリングの基礎知識				
第3回：カウンセリングマインド・聴くスキル				
第4回：児童・生徒の問題の理解① 発達段階と発達課題				
第5回：児童・生徒の問題の理解② 子どもたちのサイン				
第6回：学校における精神医学の基礎知識				
第7回：不登校① 不登校の基礎知識				
第8回：不登校② 不登校への対応				
第9回：いじめ① いじめの基礎知識				
第10回：いじめ② いじめへの対応				
第11回：発達障害① 発達障害の基礎知識				
第12回：発達障害② 発達障害への対応				
第13回：その他の児童・生徒の問題				
第14回：保護者を対象とした教育相談				

第 15 回：学校組織と教育相談、教員のメンタルヘルス

定期試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

MINERVA教職講座10学校教育相談 一丸藤太郎・菅野信夫編著 ミネルヴァ書房

ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック 向後礼子・山本智子著 ミネルヴァ書房

体験型ワークで学ぶ教育相談 大前玲子編著 大阪大学出版会

その他、適宜紹介します

学生に対する評価

最終レポート50%、毎回の課題への取り組み、提出物50%によって総合的に評価します

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中等）A		単位数：2単位		担当教員名：ト部匡司、三吉和彦	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 20 人					
受講者をグループ分けして授業を実施する（1クラス当たり10人）					
教員の連携・協力体制					
広島地区大学教育実習研究連絡協議会及び広島市教員等育成に関する協議会のメンバーとして定期的に広島市教育委員会並びに校長会と連携・協力し、本演習の一環として履修者を広島市内の公立中学・高等学校による教育研究発表大会（公開授業）に参加させる。					
授業のテーマ及び到達目標					
この演習は、教育職員免許法施行規則で定められた「教育実践に関する科目」のうち、「教職実践演習」に該当するものである。履修者は各自の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、さらに「教育実習」で学んだことを振り返り、教職課程の総仕上げとする。					
中学校英語科及び高等学校英語科の教員として、実技指導、グループ討論、補完指導、試験の結果等を踏まえ、養成段階で修得すべき最小限必要な資質能力（教員としての使命感や責任感等を持ち、学級や教科を担当しつつ、教科指導及び生徒指導等の職務を著しい支障がなく実践できる資質能力）を習得することを目指す。					
授業の概要					
演習では、教育実習等の経験に基づいたケース・メソッドを採用し、より具体的な課題やテーマを取り上げ、事例研究、グループ討議等を実施する。そうすることで、教員に求められる「使命感や責任感、教育的愛情」、「社会性や対人関係能力」、「生徒理解や学級経営」及び「教科の指導力」といった資質能力を有機的に統合する。履修者は、各自で教育実習時に自分の課題となったケース（テーマ）を挙げ、そのケースについて教育実習時の経験や関連文献等により、より効果的な解決策をパワーポイントにまとめてICTを活用しながら発表し、必要に応じてロールプレイや模擬授業等を取り入れながら、グループ討議による振り返りを行う。また演習の一環として、広島市内の学校で実施される公開教育研究発表会に参加する。					
事前に、教職課程履修開始時から学生ごとに「履修カルテ」を作成し、学習内容、理解度等を把握する。事後には、各自が「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を受ける。					

授業計画

- 第1回 本演習の内容と方法
- 第2回 履修してきた教職科目の成果と課題（振り返り）
- 第3回 教師としての使命感等について（事例研究）Ⅰ
- 第4回 教師としての使命感等について（事例研究）Ⅱ
- 第5回 生徒理解や学級経営について（事例研究）Ⅰ
- 第6回 生徒理解や学級経営について（事例研究）Ⅱ
- 第7回 教科指導（授業実践）について（事例研究）Ⅰ
- 第8回 教科指導（授業実践）について（事例研究）Ⅱ
- 第9回 教科指導（授業実践）について（事例研究）Ⅲ
- 第10回 教師としての社会性、対人関係能力について（事例研究）Ⅰ
- 第11回 教師としての社会性、対人関係能力について（事例研究）Ⅱ
- 第12回 中学・高等学校での教育研究発表大会への参加
- 第13回 中学・高等学校での教育研究発表大会への参加
- 第14回 中学・高等学校での教育研究発表大会への参加—報告と討議
- 第15回 本演習の総括

テキスト

『中学校・高等学校学習指導要領』（文部科学省）

参考書・参考資料等

これまでの「教職に関する科目」及び「教科に関する科目」の履修において使用した教科書、参考書等を活用し、参考文献は適宜紹介する。

学生に対する評価

教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、次の方法で成績評価及び単位認定を行う。

- ①討議・発表とレポート（80%）
- ②授業への参加度（20%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。